

# WebSAM DeploymentManager Ver5.2

## ユーザーズガイド

### PackageDescriber編

# 目次

目次.....	2
商標について.....	3
はじめに.....	3
導入編.....	5
1 PackageDescriberをインストールする前に.....	5
2 PackageDescriberのインストール.....	6
3 PackageDescriberの上書きインストール・アンインストール.....	10
4 PackageDescriberを初めて使用する場合(初期導入時).....	13
基本操作編.....	17
5 パッケージ作成.....	17
5.1 基本情報.....	18
5.2 実行設定情報.....	22
5.3 対応OSと言語情報.....	25
5.4 依存情報.....	26
5.5 識別情報.....	36
6 パッケージ修正/削除.....	42
7 パッケージWebサーバへの登録/削除.....	45
8 環境設定.....	48
9 オンライン更新.....	50

## 商標について

- ・ Microsoft、Windows、Windows Vista、Microsoft Officeは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ JavaおよびすべてのJava関連の商標は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems,Inc. の商標または登録商標です。
- ・ 本製品にはThe Apache Software Foundationより開発したソフトウェア (**Apache Ant**)が含まれています。  
**Apache Ant** is made available under the [Apache Software License, Version 2.0](http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0).  
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>
- ・ その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

## はじめに

PackageDescriber は以下の用途に使用します。

- ・Windows用パッケージ情報ファイルの作成・修正
- ・パッケージWebサーバへのパッケージ登録/削除
- ・OS定義ファイルと言語定義ファイルのオンライン更新

### 注意

PackageDescriberはWindows用のパッケージ作成ツールです。Linuxのパッケージを登録する場合は、イメージビルダーを使用してください。

本書は、以下の内容で構成されており、PackageDescriberのインストールから各機能の使用方法までを説明しています。

**導入編** PackageDescriber をインストールするまでの各種設定について

**基本操作編** PackageDescriber の基本的な使用方法について

**注意**

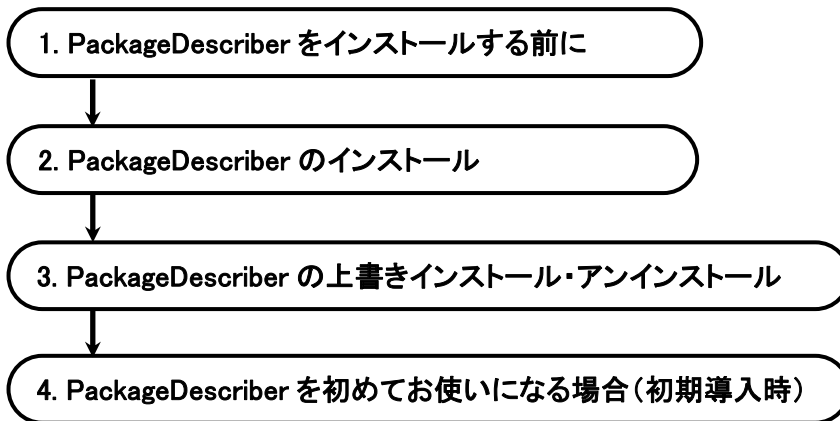
本書で使用する用語について説明します。

- **管理サーバ**  
「管理サーバ for DPM」がインストールされたコンピュータを「管理サーバ」と表記します。
- **Web サーバ**  
「Web サーバ for DPM」がインストールされたコンピュータを「Web サーバ」と表記します。
- **コンピュータ、クライアント、クライアントコンピュータ**  
管理サーバから管理を行うコンピュータを「コンピュータ」、「クライアント」または、「クライアントコンピュータ」と表記します。実際の管理操作は Web コンソールから行います。
- **パッチ**  
Microsoft 社が発表する Windows OS 用のサービスパック、HotFix 等を総称してパッチと表記します。
- **パッケージ**  
パッチ、アプリケーションとパッケージ情報ファイルを合わせてパッケージと表記します。PackageDescriber で作成します。
- **パッケージ情報ファイル**  
パッチ、アプリケーションの基本情報、実行情報、適用 OS 情報、依存情報と識別情報の保存に用いるファイルをパッケージ情報ファイルと表記します。PackageDescriber で作成します。
- **パッケージ Web サーバ**  
PackageDescriber で作成したパッケージを登録するコンピュータをパッケージ Web サーバと表記します。
- **パッケージ登録(再登録)**  
PackageDescriber で作成したパッケージを、パッケージ Web サーバにアップロードすることをパッケージ登録と表記します。PackageDescriber で修正したパッケージをパッケージ Web サーバに再アップロードすることをパッケージ再登録と表記します。
- **自動ダウンロード**  
あらかじめ管理サーバ側で指定した時刻に「パッケージ Web サーバ」から新規作成されたパッケージを自動的にダウンロードする機能のことを自動ダウンロードと呼びます。
- **OS 定義ファイル**  
OS 情報を管理するファイルを OS 定義ファイルと表記します。
- **言語定義ファイル**  
言語情報を管理するファイルを言語定義ファイルと表記します。
- **自動更新**  
コンピュータは、あらかじめ指定されたタイミングで管理サーバを参照し、未適用のパッケージがあった場合、配信要求を行います。また、パッケージを受け取った後の適用も自動で行うことができ、この機能を自動更新と呼びます。
- **オンライン更新**  
サポートする OS 定義ファイル/言語定義ファイルに変更があった場合、例えば、新しいサービスパックが発表された場合などに、DPM の公式 Web サイトから最新の定義ファイルをダウンロードし、更新する機能のことをオンライン更新と呼びます。
- **プログラムの追加と削除**  
本書では「プログラムの追加と削除」「アプリケーションの追加と削除」をまとめて「プログラムの追加と削除」と表記します。使用する OS によっては「アプリケーションの追加と削除」になりますので適宜読み替えてください。

その他、DPMの関連用語については、「ユーザーズガイド 導入編 はじめに」を参照してください。

# 導入編

■ 本章では、PackageDescriber の導入までを以下の流れに沿って説明します。



## 1 PackageDescriberをインストールする前に

■ PackageDescriber をインストールするコンピュータが以下の HW/SW 環境を満たしているか確認してください。

### HW 環境

CPU	Intel Pentium III プロセッサ (600MHz) 以上
メモリ容量	約 64MB
ディスク容量	約 1MB (パッケージの格納用と JRE のインストールに約 130MB が別途必要。)
その他	ネットワークに接続できること (オンライン更新時)

### SW 環境

サポート OS	(IA32)Windows Server 2008 Standard、Enterprise ※1 (IA32)Windows Server 2003 Standard Edition、Enterprise Edition (IA32)Windows Server 2003 R2 Standard Edition、Enterprise Edition (IA32)Windows Storage Server 2003 R2 (IA32)Windows 2000 Server (SP4 以上)、Advanced Server (SP4 以上)、 Professional (SP4 以上) (IA32)Windows Vista Business、Enterprise、Ultimate (IA32)Windows XP Professional (SP2 以上) (EM64T)Windows Server 2008 Standard x64、Enterprise x64 ※1 (EM64T)Windows Storage Server 2008 Standard x64、Enterprise x64 ※1 (EM64T)Windows Server 2008 R2 Standard、Enterprise、Datacenter ※1
その他	JRE 6 Update 17 ※2

※1 Full Installation のみサポート。また、インストールや運用時における操作は必ず Administrator ユーザで行ってください。

※2 インストール CD-ROM には、JRE 6 Update 17 が含まれています。

### ヒント

JRE については以下を参照してください。

<http://java.sun.com/javase/ja/6/webnotes/install/index.html>

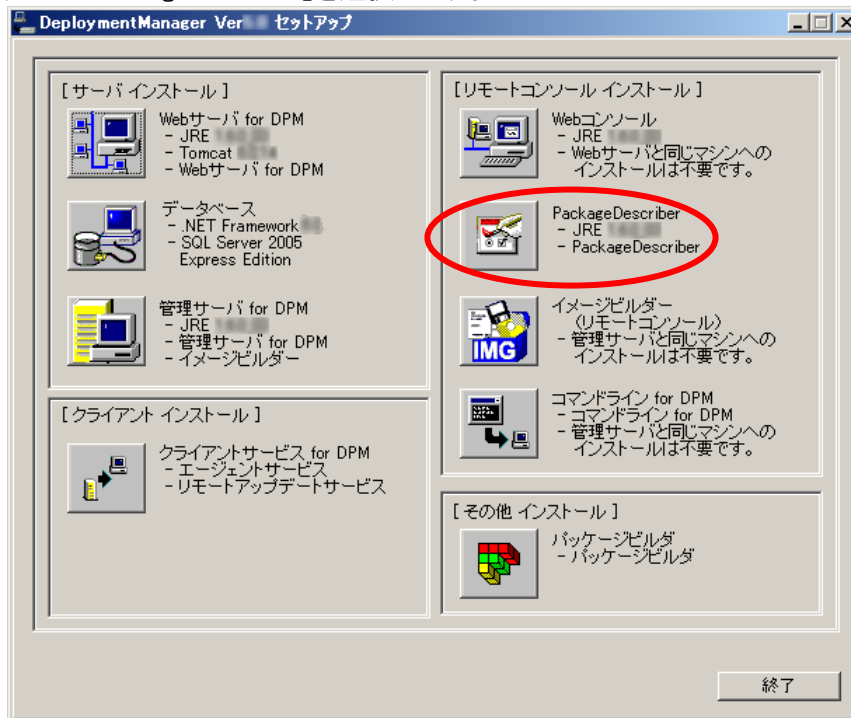
## 2 PackageDescriberのインストール

- PackageDescriber のインストールについて説明します。

ヒント

以降は、EE/SE 製品向けの手順となります。SSC 向け製品については、一部手順が異なりますので、SigmaSystemCenter インストールガイドも合わせて参照してください。

- (1) PackageDescriber をインストールするコンピュータに、管理者権限をもつユーザでログインします。
- (2) インストールCD-ROMを(CD-ROM)ドライブにセットします。「DeploymentManagerセットアップ」画面が起動しますので「PackageDescriber」を選択します。

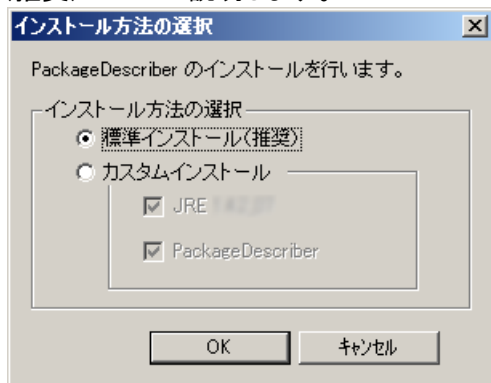


注意

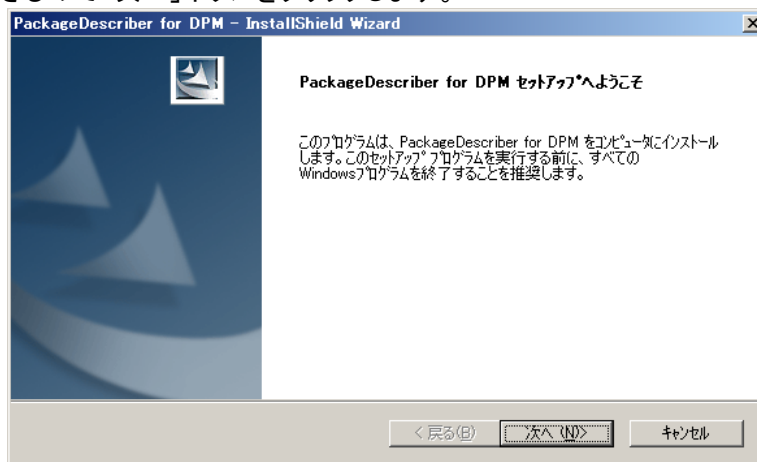
Windows Vista で UAC を有効に設定している環境に PackageDescriber をインストールする場合は、必ず以下の手順で行ってください。

- (1) 上記の「DeploymentManager セットアップ」画面で、「終了」ボタンをクリックします。
- (2) エクスプローラなどから以下ファイルを右クリックして、「管理者として実行」を選択します。
  - ・SSC 向け製品の場合 : (インストール CD-ROM):%DPM%\Launch.exe
  - ・EE/SE 製品の場合 : (インストール CD-ROM):%Launch.exe
- (3) 再度「DeploymentManagerセットアップ」画面が起動しますので、「PackageDescriber」を選択します。

- (3) 「インストール方法の選択」画面が表示されます。標準インストール(推奨)を選択し「OK」ボタンをクリックしてください。キャンセルをクリックすると「DeploymentManager セットアップ」画面に戻ります。  
JRE が既にインストールされている場合 (Web サーバと同じコンピュータにインストールする場合など)「カスタムインストール」を選択し JRE のチェックを外して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでは標準インストール(推奨)について説明します。



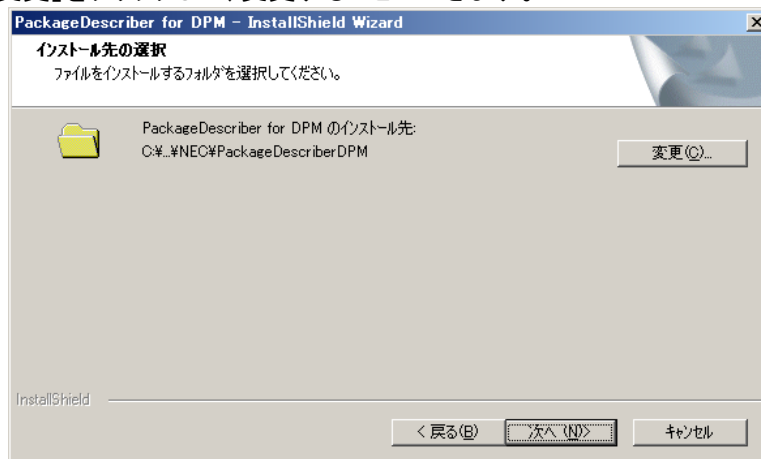
- (4) JRE のインストールが始まりますので、しばらくお待ちください。
- (5) 続いて PackageDescriber のインストーラが起動します。「PackageDescriber セットアップへようこそ」画面が表示されるので「次へ」ボタンをクリックします。



- (6) 「ユーザ情報」画面が表示されるので「ユーザ名」「会社名」を入力して「次へ」ボタンをクリックします。



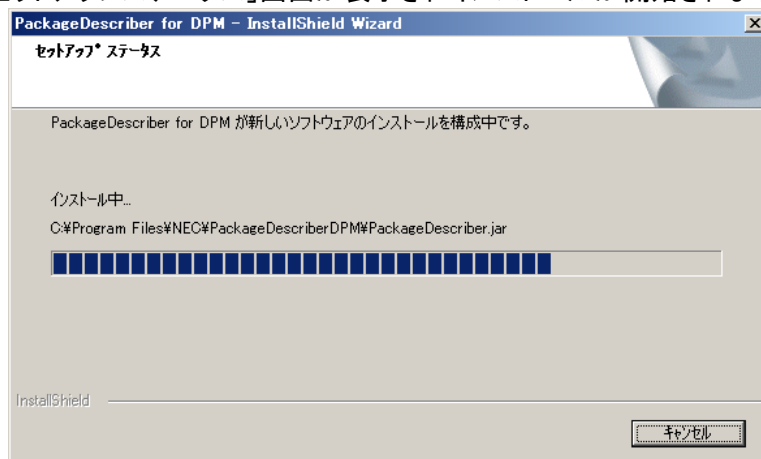
- (7) 「インストール先の選択」画面が表示されますので、インストール先のフォルダを指定して「次へ」ボタンをクリックします。  
デフォルトでは「(システムドライブ):¥Program Files¥NEC¥PackageDescriberDPM」に設定されていますが、「変更」をクリックして、変更することができます。



- (8) 「インストール準備の完了」画面が表示されますので「インストール」ボタンをクリックします。

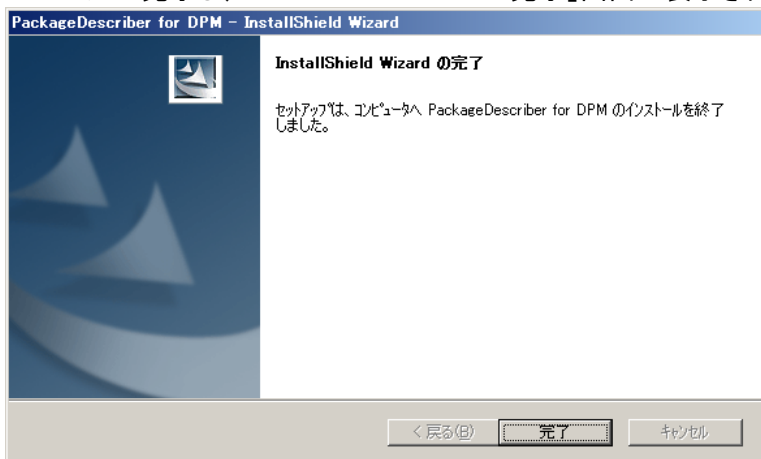


- (9) 「セットアップステータス」画面が表示されインストールが開始されます。





(10)インストールが完了し、「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されるので、「完了」ボタンをクリックします。



(11)インストール完了後、Java Plug-in の設定を行います。「ユーザーズガイド 導入編 2.1.1 Web サーバ for DPM の標準インストール」(13)から(19)を参照して設定を行ってください。

以上で「PackageDescriber」のインストールは完了です。

**ヒント**

インストールが完了するとデスクトップと「スタート」メニューにショートカットが追加されます。

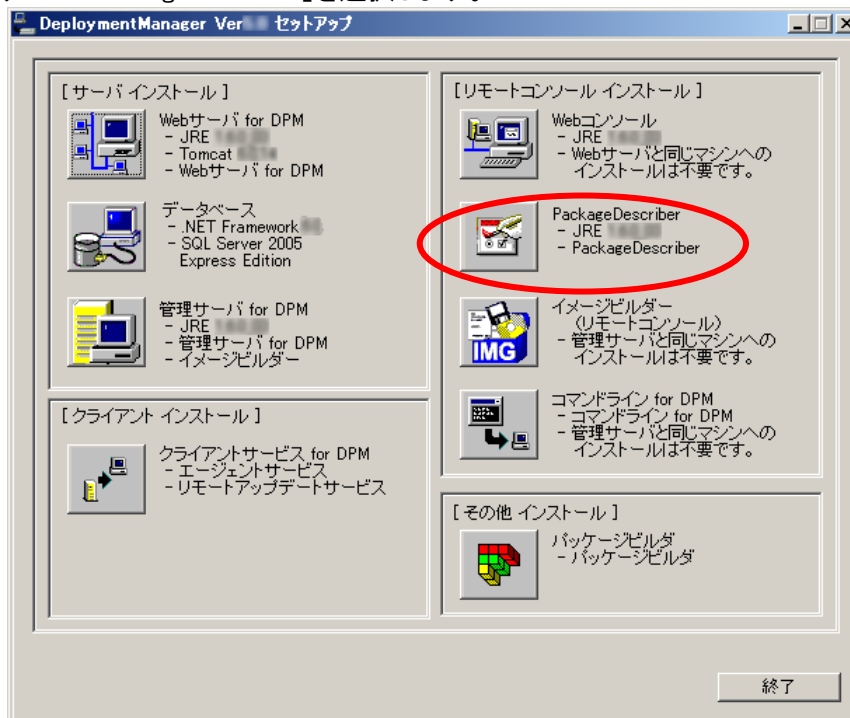
### 3 PackageDescriberの上書きインストール・アンインストール

- PackageDescriberの上書きインストール・アンインストールについて説明します。

ヒント

以降は、EE/SE 製品向けの手順となります。SSC 向け製品については、一部手順が異なりますので、SigmaSystemCenter インストールガイドも合わせて参照してください。

- (1) PackageDescriber を上書きインストールまたは、アンインストールするコンピュータに、管理者権限をもつユーザーでログインします。
- (2) インストールCD-ROMを(CD-ROM)ドライブにセットします。「DeploymentManagerセットアップ」画面が起動しますので「PackageDescriber」を選択します。

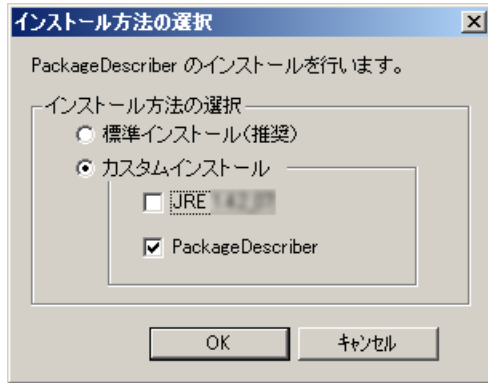


注意

Windows Vista で UAC を有効に設定している環境に PackageDescriber を上書きインストールする場合は、必ず以下の手順を行ってください。

- (1) 上記の「DeploymentManager セットアップ」画面で、「終了」ボタンをクリックします。
- (2) エクスプローラなどから以下ファイルを右クリックして、「管理者として実行」を選択します。
  - ・SSC 向け製品の場合 : (インストール CD-ROM):%DPM%Launch.exe
  - ・EE/SE 製品の場合 : (インストール CD-ROM):%Launch.exe
- (3) 再度「DeploymentManagerセットアップ」画面が起動しますので、「PackageDescriber」を選択します。

- (3) 「インストール方法の選択」画面が表示されます。カスタムインストールを選択し「JRE 6 Update 17」を外して「OK」ボタンをクリックしてください。

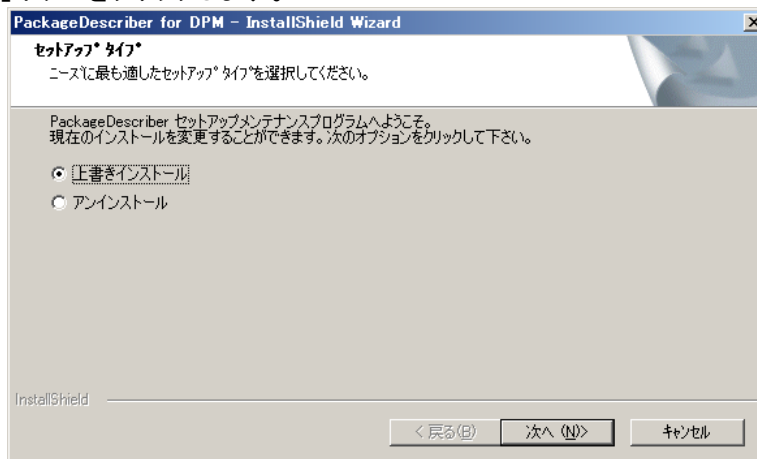


「キャンセル」ボタンをクリックすると「DeploymentManager セットアップ」画面に戻ります。

**ヒント**

JRE 6 Update 17 のアンインストールを行う場合は、「プログラムの追加と削除」から行ってください。

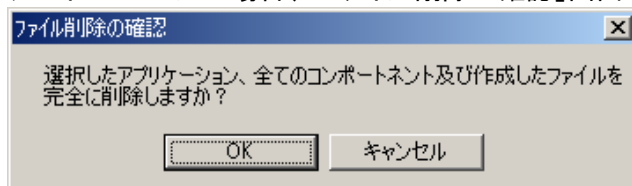
- (4) 「セットアップ タイプ」画面が表示されるので「上書きインストール」または、「アンインストール」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



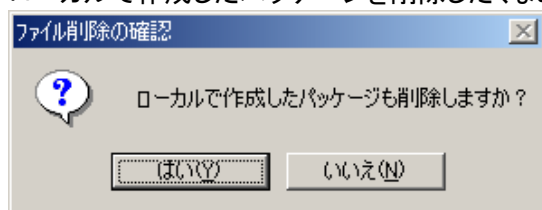
- (5) 上書きインストールの場合、上書きインストールの確認画面が表示されますので「OK」ボタンをクリックします。



アンインストールの場合、「ファイル削除の確認」画面が表示されますので「OK」ボタンをクリックします。



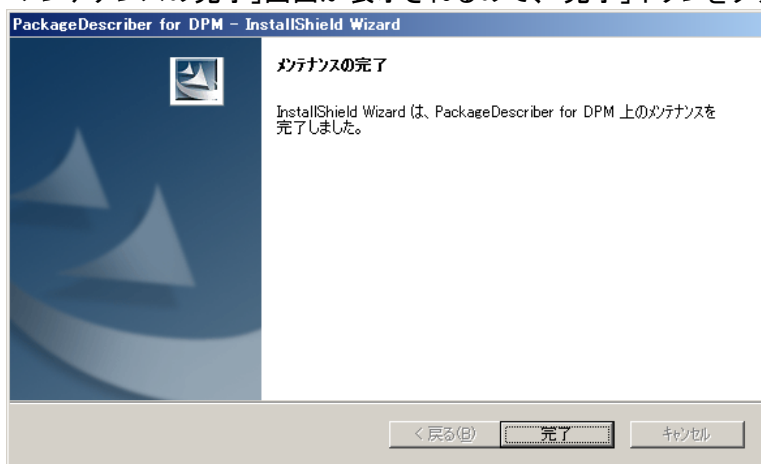
アンインストールの場合、さらにもう一度、「ファイル削除の確認」画面が表示されます。  
「はい」ボタンをクリックすると、ローカルで作成したパッケージも削除されます。  
ローカルで作成したパッケージを削除したくない場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。



**ヒント**

「いいえ」ボタンを選択した場合、PackageDescriber のインストールフォルダ配下に Packages フォルダが残ったままになります。

(6) 「メンテナンスの完了」画面が表示されるので、「完了」ボタンをクリックします。



(7) 上書きインストールの場合、インストール完了後、Java Plug-in の設定を行います。「ユーザーズガイド 導入編 2.1.1 Web サーバ for DPM の標準インストール」(13)から(19)を参照して、設定を行ってください。

以上で「PackageDescriber」の上書きインストール・アンインストールは完了です。

※JRE 6 Update 17 に対して設定変更を行った場合、設定変更を有効するために、PackageDescriber を使用する前に、ご都合に合わせてコンピュータの再起動を行ってください。

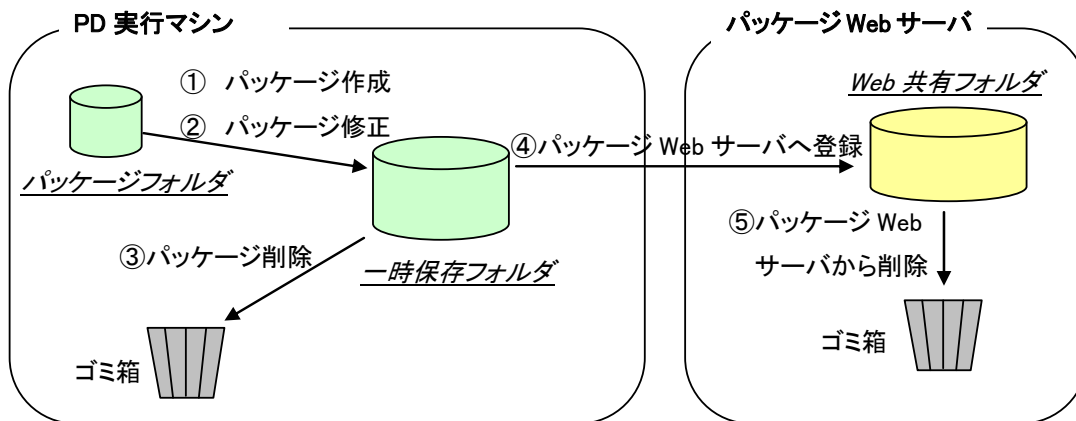
**ヒント**

PackageDescriber の上書きインストール・アンインストールはコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」画面からも実行できます。  
「PackageDescriber For DPM」の「変更」または、「削除」を選択することで、PackageDescriber の「セットアップタイプ」画面が表示されます。上記(4)～(6)までの説明に従って上書きインストール・アンインストールを行ってください。

## 4 PackageDescriberを初めて使用する場合(初期導入時)

- パッケージ Web サーバの Web 共有フォルダに格納されたパッケージを、管理サーバから HTTP でダウンロードできるように設定する必要があります。設定方法については、「ユーザーズガイド 導入編 1.4 パッケージ Web サーバの設定について」をご覧ください。
- パッケージ作成及び修正で作成したパッケージは、すべて「一時保存フォルダ」に保存されます。必要に応じてパッケージ Web サーバへ登録してください。
- 「パッケージ Web サーバへの登録/削除」画面からパッケージ Web サーバにパッケージを登録すると、管理サーバからダウンロードできるようになります。

下記は PackageDescriber に関するフォルダの関係図です。

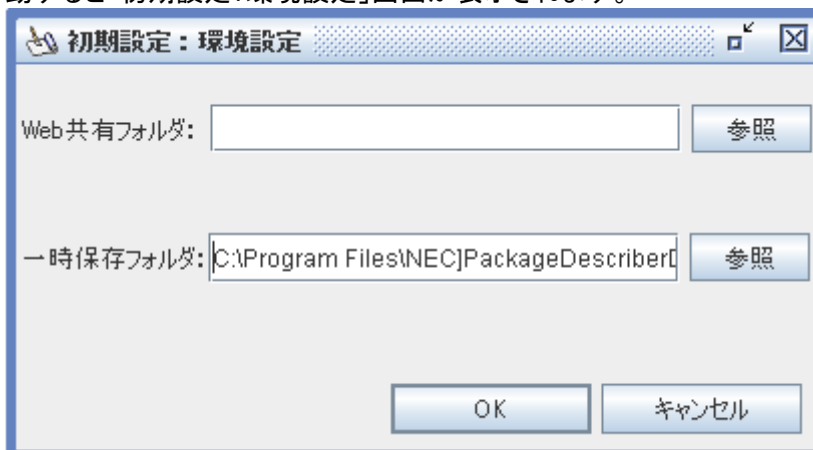


パッケージ ABC を例として説明します。

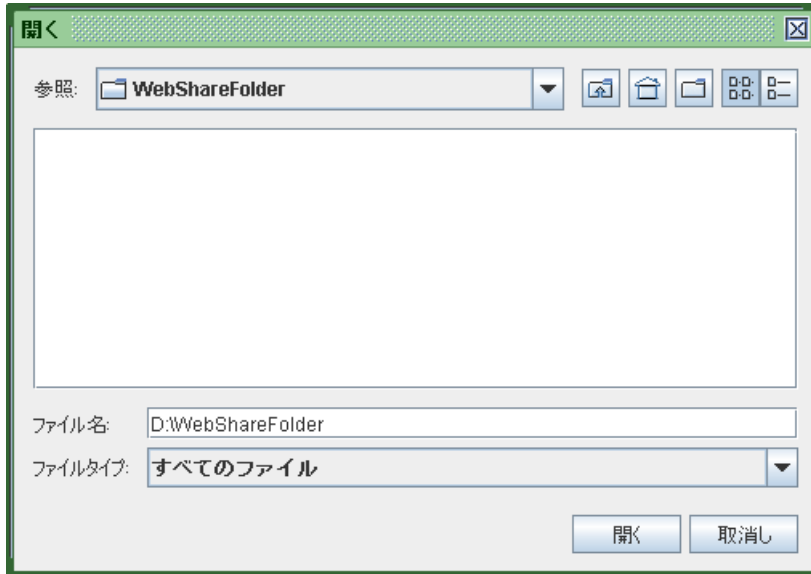
- ① パッケージ作成時、指定したパッケージABCのフォルダ(ファイル)を「一時保存フォルダ」にコピーします。
- ② パッケージ修正時、「一時保存フォルダ」に保存しているパッケージ ABC に対して修正を行います。
- ③ パッケージ削除時、パッケージ ABC を「一時保存フォルダ」から削除します。
- ④ パッケージ ABC をパッケージ Web サーバへ登録すると、「一時保存フォルダ」から「Web 共有フォルダ」へコピーします。
- ⑤ パッケージ Web サーバからパッケージ ABC を削除すると、「Web 共有フォルダ」からパッケージ ABC を削除します。

- PackageDescriber の初期設定について説明します。

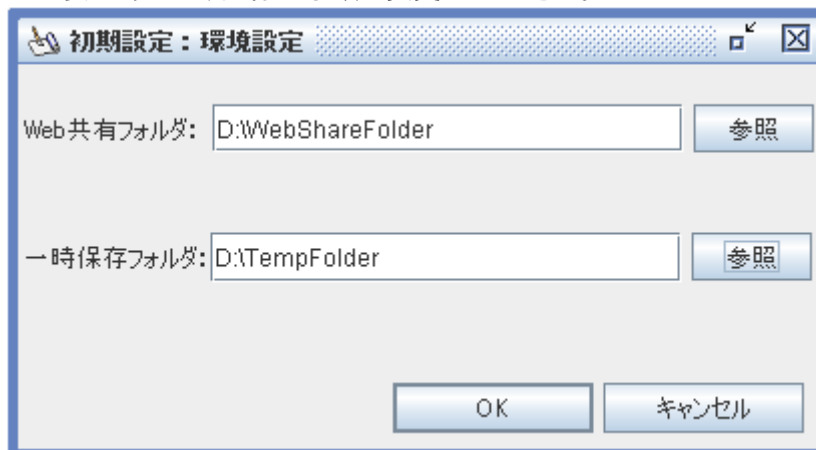
- (1) 「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「PackageDescriber for DPM」を選択し PackageDescriber を起動すると「初期設定:環境設定」画面が表示されます。



- (2) 「Web 共有フォルダ」の「参照」ボタンをクリックすると「フォルダ選択ダイアログ」が開きますので、フォルダを指定して「開く」をクリックします



- (3) 「OK」をクリックすると、「Web 共有フォルダ」に指定したフォルダが設定されます。「一時保存フォルダ」も変更の必要があれば、同様の手順で変更してください。



**注意**

- Web 共有フォルダを設定しない場合、管理サーバから自動ダウンロードはできません。
- Web 共有フォルダに「読み取り」と「書き込み」属性があることを確認してください。
- Web 共有フォルダには登録したパッケージが格納されるので、十分な空き容量を確保してください。
- ネットワークコンピュータの共有フォルダを「Web 共有フォルダ」に指定する場合、事前にローカルドライブの割り当てを行うことを推奨します。ドライブの割り当てが行われていない場合、ネットワークコンピュータの共有フォルダにアクセスできない場合があります。
- Web 共有フォルダを変更すると、以前に登録したパッケージは再登録する必要があります。
- 「Web 共有フォルダ」に<PackageDescriber インストールフォルダ>は指定できません。
- 「Web 共有フォルダ」「一時保存フォルダ」は省略できません。
- 「一時保存フォルダ」と「Web 共有フォルダ」には、同一フォルダは指定できません。
- パッケージを保存するフォルダ(通常は「一時保存フォルダ」とパッケージ ID の組み合わせ)に注意してください。

DPM では、パッケージを保存するフォルダ下にパッケージ ID に指定した名称でフォルダを作成し、パッケージを管理しています。

既にパッケージ ID と同じフォルダが存在する場合は、一旦そのフォルダを削除しパッケージを作成します。そのためパッケージを保存するフォルダにシステムフォルダ等のパッケージの保存以外の用途で使用するフォルダを指定しないようにしてください。

- 「一時保存フォルダ」にファイルは指定できません。
- 「一時保存フォルダ」に指定するフォルダには書き込み権限が必要です。
- Windows Vista で UAC を有効に設定している場合は、以下に注意してください。
  - ・管理者権限を持ったユーザーの場合も%ProgramFiles%への書き込み権限がない為、「一時保存フォルダ」を初期設定値から変更してください。
  - ・PDconfig ファイルは手動で設定できません。
  - ・PackageDescriber をアンインストールした環境に、再度 PackageDescriber をインストールすると、「初期設定:環境設定」画面が表示されない場合があります。その場合は、「設定」メニュー→「環境設定」画面から設定を変更してください。
  - ・UAC の設定(有効/無効)を切り替えた後の PackageDescriber の初回起動時には、UAC を切り替える前の「Web 共有フォルダ」と「一時保存フォルダ」を再度設定してください。

## ヒント

- Web 共有フォルダの設定は「設定」メニューの「環境設定」から変更可能です。
- PackageDescriber の起動に時間がかかる場合があります。
- 「Web 共有フォルダ」「一時保存フォルダ」を設定し「OK」ボタンをクリックすると「<PackageDescriber インストールフォルダ>¥PDconfig」の PackSerFolder (Web 共有フォルダ) と PackageSavePath (一時保存フォルダ) に情報が書き込まれます。
- 「PDconfig」を直接編集する場合、2 バイト文字は入力できません。  
一度、「初期設定:環境設定」画面で「Web 共有フォルダ」または「一時保存フォルダ」で設定し「OK」ボタンをクリックして「PDconfig」に出力し、値を参照してください。
- 「PDconfig」を直接編集した場合、PackageDescriber を再起動してください。  
起動後に「PDconfig」の設定が反映されます。
- 「一時保存フォルダ」でパッケージ作成時の保存フォルダを設定できます。  
デフォルトは「<PackageDescriber インストールフォルダ>¥Packages」です。

以上で、PackageDescriber の初期設定は完了です。



# 基本操作編

- この章では、PackageDescriber の各機能の基本的な使用方法について説明します。

## 5 パッケージ作成

- 「パッケージ作成」とは、パッチ、アプリケーションに以下の情報を組み込んでパッケージ情報ファイルを作成し、1つのパッケージにすることをいいます。

「パッケージ作成」で、パッケージ関連情報を入力することにより、各管理サーバからコンピュータへのパッケージ配信を自動的に実行し、適用することが可能になります。

- ・ 基本情報
- ・ 実行設定情報
- ・ 適用 OS と言語情報
- ・ 依存情報
- ・ 識別情報

### 重要

Windows CE(NEC US110)の場合は、本章で説明する以外に追加の手順が必要となります。「ユーザーズガイド 応用編 付録 5. Windows CE(NEC US110 専用)のパッケージの作成方法」を参照してください。

### 注意

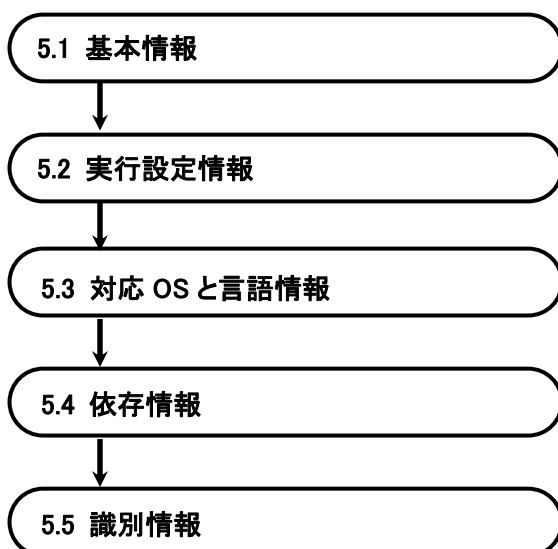
DPM では、JIS2004 はサポートしておりません。

- パッケージを作成するためには「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「PackageDescriber for DPM」を選択し PackageDescriber を起動します。[ファイル]メニューから「パッケージ作成」を選択します。

### ヒント

PackageDescriber の起動に時間がかかる場合があります。

- 「パッケージ」の作成方法について以下の流れに沿って説明します。



## 5.1 基本情報

### ■ パッケージの基本情報の入力方法を説明します。

(1) 「パッケージ作成」画面の「基本」タブで各項目を入力します。

The screenshot shows the 'PackageDescriptor' dialog box with the '基本' tab selected. The 'タイプ' (Type) dropdown is set to 'HotFix'. The '緊急度' (Priority) dropdown is set to '高' (High). The 'MS 番号' (MS Number) field is empty. A note at the bottom right states: '説明: MS の番号もしくは KB 番号を入力してください。例: "Q327269" "KB23880"'

HotFix 選択時

The screenshot shows the 'PackageDescriptor' dialog box with the '基本' tab selected. The 'タイプ' (Type) dropdown is set to 'サービスパック' (Service Pack). The '緊急度' (Priority) dropdown is set to '一般' (Normal). The 'MS 番号' (MS Number) field is empty. A note at the bottom right states: '説明: MS の番号もしくは KB 番号とバージョンを入力してください。例: Windows 2000 サービスパック4の場合、MS の番号: Q327194 サービスバージョン: 4 マイナーバージョン: 0'

サービスパック選択時

The screenshot shows the 'PackageDescriptor' dialog box with the '基本' tab selected. The 'タイプ' (Type) dropdown is set to 'アプリケーション' (Application). The '緊急度' (Priority) dropdown is set to '一般' (Normal). The '表示名' (Display Name) and '表示バージョン' (Display Version) fields are empty. A note at the bottom right states: '説明: アプリケーションの表示名と表示バージョンを入力してください。詳しくはユーザーガイドを参照してください。'

アプリケーション選択時

#### ● パッケージ ID

パッケージにつける ID 番号です。半角英数と「-」半角ハイフン、「\_」半角アンダーバー63 バイト以内で入力できます。入力は必須です。

#### 注意

パッケージ ID に 16 進数表記の文字(%0D、%0A など)を含めないでください。  
管理サーバに正しくパッケージがダウンロードできません。

#### ● 会社名

パッチ、アプリケーションの発行元の名称です。127 バイト以内で入力できます。

#### ● リリース日

パッチ、アプリケーションがリリースされた日付を入力します。(YYYY/MM/DD)の書式で入力できます。

#### ヒント

- リリース日付に無効な値を入力すると、自動的に空になります。
- リリース日付の年は 4 桁、月と日は 2 桁で入力してください。

- パッケージ概要  
パッケージの概要情報を入力します。511 バイト以内で入力できます。
- タイプ  
パッケージのタイプを選択します。

#### 注意

- タイプを変更すると、変更したタイプに沿って画面が切り替わります。画面が切り替わらない場合は、マウスを使用してタイプの変更を行ってください。
- タイプを変更すると、「緊急度」、「実行設定」情報がデフォルトに変わりますので、もう一度確認してください。
  - (1) タイプをサービスパックに変更した場合  
緊急度は「一般」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」のチェックボックスが自動的にチェックされます。コピーするフォルダに複数のフォルダが追加されている場合、フォルダの設定はパッケージからすべて削除されます。
  - (2) タイプを HotFix に変更した場合  
緊急度は「高」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」のチェックボックスが自動的に外されます。コピーするフォルダに複数のフォルダが追加されている場合、フォルダの設定はパッケージからすべて削除されます。
  - (3) タイプをアプリケーションに変更した場合  
緊急度は「一般」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」のチェックボックスが自動的に外されます。

#### ヒント

タイプの種類には以下の 3 種類があります。デフォルトは、HotFix です。

- HotFix
- サービスパック
- アプリケーション

- 緊急度  
パッケージの緊急度 (4 種類) を設定します。HotFix を選択時した場合のデフォルトは「高」になります。サービスパックまたは、アプリケーションを選択時した場合のデフォルトは、「一般」になります。緊急度の種類により管理サーバが自動ダウンロードを行った際の処理が異なります。以下の表を参考にしてください。

緊急度	コンピュータの電源状態	パッケージ登録後の処理
最高	電源 ON	即座に自動更新通知を発行します。
	電源 OFF	即座に自動更新通知を発行しますが、電源 OFF の場合、自動更新は行なわれません。次回コンピュータの起動時に、パッケージに設定された情報に基づきこのパッケージが適用済みかどうかを判断し、未適用のパッケージのみを配信します。
高	電源 ON	管理サーバで指定した時刻に自動更新を行います。
	電源 OFF	次回コンピュータの起動時に自動更新を行います。パッケージに設定された情報に基づきこのパッケージが適用済みかどうかを判断し未適用のパッケージのみを配信します。
一般		自動更新では配信されません。
低		管理サーバでシナリオを作成し、手動で配信してください。

**注意**

- 自動更新の対象になるためには緊急度以外に以下の項目の設定が必要になります。設定しない場合、緊急度が「最高」、「高」でも自動更新で配信は行われません。管理サーバでシナリオを作成し、配信してください。
  - ・HotFix の場合 … MS 番号 もしくは識別情報
  - ・サービスパックの場合 … メジャーバージョン、マイナーバージョン
  - ・アプリケーションの場合 … 表示名、表示バージョン もしくは識別情報
- 緊急度が「最高」パッケージの場合、パッケージの対象 OS であれば全てのコンピュータに対し自動更新通知を発行します。ただし、電源 OFF、自動更新の設定が常に OFF のコンピュータに対しては自動更新は行われません。

## ● MS 番号

Microsoft社が発行するサービスパックやHotFixにあらかじめ付けられているMS(KB)番号を入力します。半角英数31バイト以内で入力できます。

入力例)       KB889293  
                  Q819696

**重要**

- Microsoft 社の HotFix の場合、「MS 番号」欄に入力した値と、レジストリに書き込まれる MS 番号 (KBXXXXXX や QXXXXXX) を比較し、値が一致した場合適用されていると判断します。必ず正しい値を「KB」もしくは「Q」を含めて入力してください。「MS 番号」欄に入力しない場合は、「識別情報」に入力した、レジストリやファイルの情報で適用状態を判断します。
- レジストリに MS 番号を書き込まない HotFix の場合、MS 番号に PackageDescriber で入力できない文字が含まれる場合、自動更新を行うためには「識別情報」の入力が必要です。
- Microsoft 社の HotFix の場合、「MS 番号」「識別情報」ともに情報を入力していない hotfix は自動更新の対象となりません。緊急度「最高」または「高」を指定する場合は、いずれかを必ず指定してください。

**ヒント**

サービスパックの場合、「MS 番号」「識別情報」の入力は不要です。

## ● メジャーバージョンとマイナーバージョン

作成するパッケージがサービスパックの場合、メジャーバージョンとマイナーバージョンを入力してください。入力できる値は以下になります。

有効値:

メジャーバージョン : 0~65535

マイナーバージョン : 0~65535

**重要**

Microsoft 社のサービスパックの場合、メジャーバージョン欄とマイナーバージョン欄に入力した番号と現在の OS にインストールされているサービスパックのバージョンを比較し、適用されているかどうかを判断します。必ず正しい番号を入力してください。

**ヒント**

- メジャーバージョンとマイナーバージョンに無効な値を入力すると、自動的に補正されます。サービスパックの場合、メジャーバージョンとマイナーバージョンの入力は必須です。以下の例)を参考にして入力してください。

例)Windows 2000/Windows XP の場合

OS 種別	サービスパック	メジャーバージョン	マイナーバージョン
Windows 2000	SP1	1	0
	SP2	2	0
	SP3	3	0
	SP4	4	0
Windows XP	SP1	1	0
	SP2	2	0
	SP3	3	0

- 表示名

パッケージのタイプがアプリケーションの場合、表示名が入力できます。自動更新対象のパッケージとして登録する場合、「プログラムの追加と削除」に表示されるアプリケーション名を入力してください。511 バイト以内で入力できます。

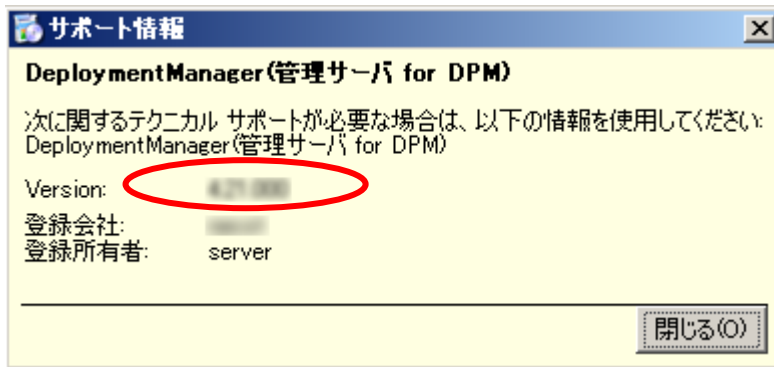
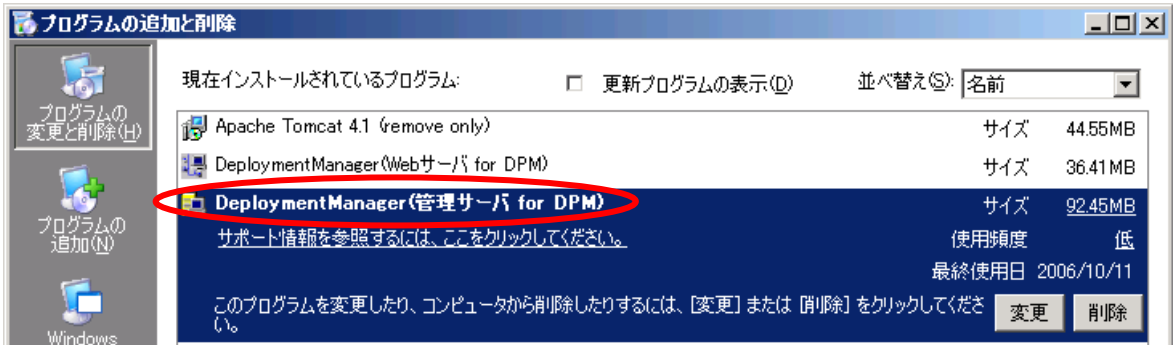
**ヒント**

- 自動更新対象のパッケージとして登録する場合、緊急度を「最高」または「高」に指定してください。
- インストールしても「プログラムの追加と削除」に表示されないアプリケーションについては識別情報を入力してください。詳しくは、本編「5.5 識別情報」を参照してください。

- 表示バージョン

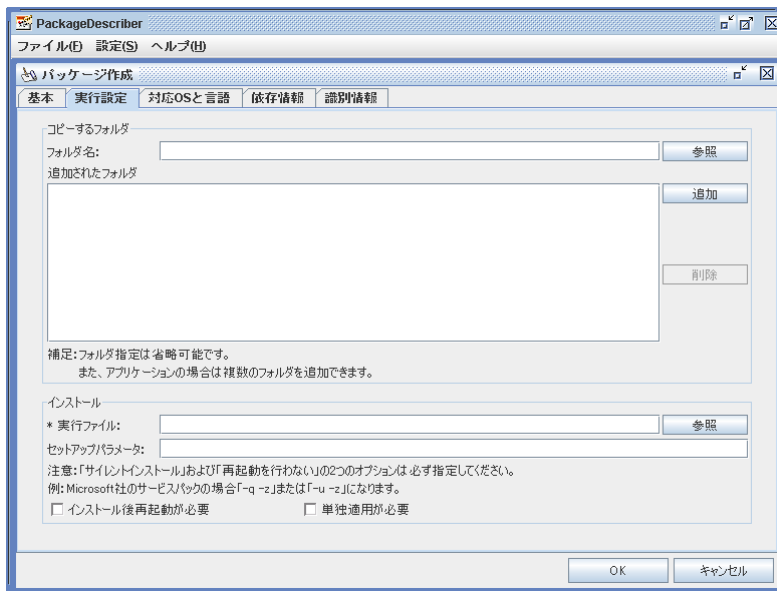
パッケージのタイプがアプリケーションの場合、表示バージョンが入力できます。表示名を入力した場合、「プログラムの追加と削除」に表示されるバージョン番号を入力してください。「プログラムの追加と削除」にバージョン番号が表示されない場合は、何も入力しないでください。126 バイト以内で入力できます。

## 例) 表示名と表示バージョン



## 5.2 実行設定情報

- パッケージの実行設定情報の入力方法を説明します。



- フォルダ名

「参照」ボタンをクリックして、パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダを 255 バイト以内で指定してください。直接入力も可能です。

- 追加されたフォルダ  
追加済みのパッケージフォルダを表示します。
  - － サービスパック/HotFix の場合は、1つのフォルダが追加できます。
  - － アプリケーションの場合は、複数のフォルダが追加できます。
- 「追加」ボタン  
「フォルダ名」で指定したフォルダを「追加されたフォルダ」に追加します。
- 「削除」ボタン  
「追加されたフォルダ」から選択したフォルダを削除します。  
「追加されたフォルダ」のフォルダが選択されている場合、有効になります。
- 実行ファイル  
入力必須です。「参照」ボタンをクリックして、パッチ、アプリケーションの実行ファイルを 255 バイト以内で指定してください。直接入力も可能です。

**重要**

実行ファイル名に%xx(xx は 16 進数の 0～f)を含むファイル(例:file%9d.exe)は登録しないでください。%xx を含むパッケージは管理サーバに正しくダウンロードできません。

**注意**

- 実行ファイルには、以下のすべての条件を満たしているものを指定してください。
  - ・サイレントインストールが出来ること。(ファイルを実行中にキー入力など応答が必要ないこと。または、バッチファイルを作成して、サイレントインストールにすることが可能であること。)
  - ・インストール中に OS の再起動が発生しないこと。
  - ・ローカルシステムアカウントでインストール出来ること。(ネットワーク参照しない。)
  - ・ファイルサイズの合計が 2GB を超えないこと。
  - ・実行中に子プロセスを作成する場合、作成した子プロセスの終了を待たずに親プロセスが終了しないこと。
- 実行ファイルに日本語を含むファイルパスを入力すると、IPF アーキテクチャマシンに正しく適用できない場合があります。

**注意**

パッケージ Web サーバに Tomcat を使用している場合、実行ファイル名に 2 バイト文字を使用できません。使用した場合、自動ダウンロードに失敗します。  
実行ファイル名に 2 バイト文字が含まれるファイルを指定する場合は、「コピーするフォルダ」ボックスの「追加されたフォルダ」に実行ファイルが含まれるフォルダを追加した後、「インストール」ボックスの「実行ファイル」横の「参照」ボタンをクリックして実行ファイルを指定してください。

- セットアップパラメータ  
パッチ、アプリケーション実行時のセットアップパラメータを指定します。  
128 バイト以内で入力してください。

**ヒント**

- Windows XP SP1、2 および Windows 2000 SP 1、2、3、4 を登録する場合、再起動を行わないようにするためにコマンドオプションに「-z」を指定してください。  
また、サイレントインストールを行うために、以下のどちらかをコマンドオプションに指定してください。
  - 「-u」: 無人モードで実行します。シナリオ実行中、自動更新中にエラーが発生した場合は、シナリオ実行、自動更新が停止し、管理サーバ上では「シナリオ実行中」もしくは「パッチ適用中」のままとなります。
  - 「-q」: Quiet モードで実行します。シナリオ実行中、自動更新中にエラーとなった場合でもそのまま次へ進みます。そのため管理サーバ上でシナリオ実行完了となっても適用されていない場合があります。
- その他のサービスパック、HotFix のパラメータについては、あらかじめ実行ファイルに「/?」を指定して実行し、パラメータを確認してください。
- サービスパックを適用する場合は、「ユーザズガイド 付録」および、製品サイト ([http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy\\_win/](http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/)) を参照してください。

- 「インストール後再起動が必要」チェックボックス  
パッケージの適用後に再起動を行う場合に設定します。自動更新方式による適用時に有効です。
- 「単独適用が必要」チェックボックス  
単独での適用が必要なパッチ、アプリケーション(例えば、サービスパック)の場合に設定します。チェックを入れると適用前に自動で再起動を行います。自動更新方式による適用時に有効です。

**重要**

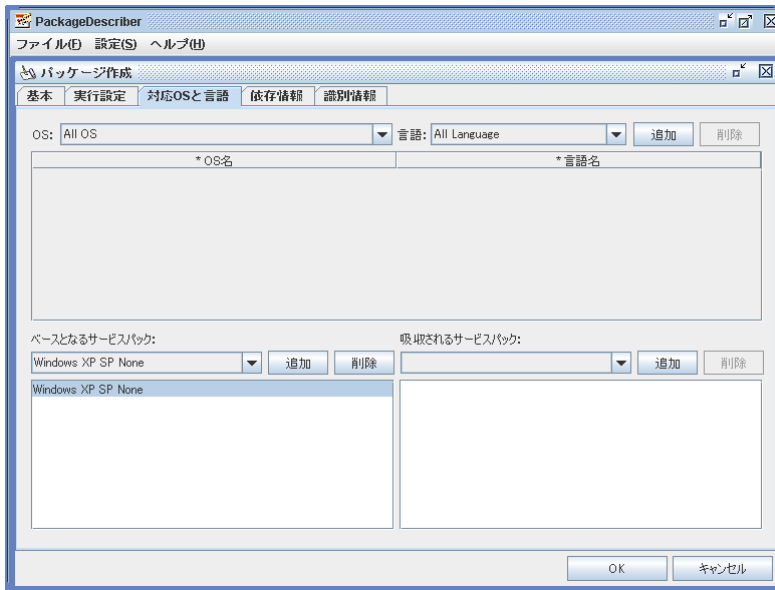
- ここで登録するパッチ、アプリケーションはサイレントインストール型であり、インストール後に再起動をしないものを指定してください。
  - ・サイレントインストールとは、実行形式のファイル(setup.exe や Update.exe)を実行すれば自動的にセットアップを行い、「次へ」のクリックや値の入力が一切不要なセットアップの形式のことです。
  - ・有効にするために再起動が必要なパッチ、アプリケーションの場合は再起動を行わないオプション(Microsoft 社のパッチの場合、一般的には「-z」)をつけてイメージを登録し、シナリオで「実行後に再起動を行う」オプションを設定するか、パッケージ作成時に「インストール後再起動が必要」にチェックを入れてください。
- コマンドオプションはサービスパック/HotFix の場合、「/h」または「-?」のオプションをつけて実行することで確認することができます。サイレントインストール型であり、「インストール後に再起動を行わない」設定のコマンドオプションを必ず指定してください。



## 5.3 対応OSと言語情報

- 作成するパッケージの対応 OS と言語情報の入力方法を説明します。

(1) 「パッケージ情報ファイル作成」画面の「対応 OS と言語」タブをクリックし、各項目を入力します。



- OS  
OS 定義ファイルに定義されている OS が表示されます。パッケージを適用する OS を選択します。「All OS」を選択した場合は、OS 情報を意識せず、すべてのコンピュータに適用します。

### 注意

- パッケージが対応している OS を正しく指定してください。
- 「All OS」を選択した場合、「Other OS」と「Windows CE 5.0[FOR US110]」以外の選択可能なすべての OS が対象になります。

- 言語  
言語定義ファイルに定義されている言語が表示されます。パッケージを適用する OS の対応言語を選択します。
- OS と言語の「追加」「削除」ボタン  
選択した「OS」、「言語」を追加、削除します。「OS」と「言語」は指定必須項目です。
- ベースとなるサービスパック  
HotFixが適用できる前提となるサービスパックを指定します。「追加」「削除」ボタンで追加、削除ができます。
- 吸収されるサービスパック  
次期サービスパックを指定します。「ベースとなるサービスパック」と併用して使用します。「追加」「削除」ボタンで追加、削除ができます。  
例) 「ベースとなるサービスパック」にWindows 2000 SP4を、「吸収されるサービスパック」にWindows 2000 SP5を入力すると、【SP4が適用されていて、SP5は未適用のコンピュータに適用】という条件になります。

## 5.4 依存情報

■ パッケージを適用する際に依存情報をチェックし、依存条件を満たす場合のみ適用を行いません。

### <依存情報>

パッケージを適用する際の前提条件となるパッケージ、ファイル、レジストリを指定します。

例)Internet Explorer 6 Service Pack 1用累積的なセキュリティ更新プログラム(KB867801)

KB867801は、Internet Explorer 6 Service Pack 1 がインストールされていないと適用することができません。Internet Explorer 6 Service Pack 1がインストールされていることを示す依存情報を追加する必要があります。

依存情報には以下の3種類があります。

- 1) 依存パッケージ  
依存するパッケージがインストールされている場合のみ適用します。依存するパッケージは、PackageDescriber で登録されている他のパッケージから選択します。また、依存パッケージを複数追加した場合は、すべての依存パッケージが適用されている場合に適用を行います。  
依存パッケージを複数追加した場合は、すべての依存パッケージが適用されている場合、適用を行います。
- 2) 依存ファイル情報  
ファイルのいずれかの存在有無により適用を行います。
- 3) 依存レジストリ情報  
レジストリのいずれかの存在有無により適用を行います。

※ 「依存パッケージ」「依存ファイル情報」「依存レジストリ情報」を複合して追加した場合は、「依存パッケージ」の条件を満たし、「依存ファイル情報」「依存レジストリ情報」に任意に設定した条件を全て満たした場合にのみ適用します。

例)仮に「依存パッケージ」をA、「依存ファイル情報」をB、「依存レジストリ情報」をC、とします。複合適用条件は下記ようになります。

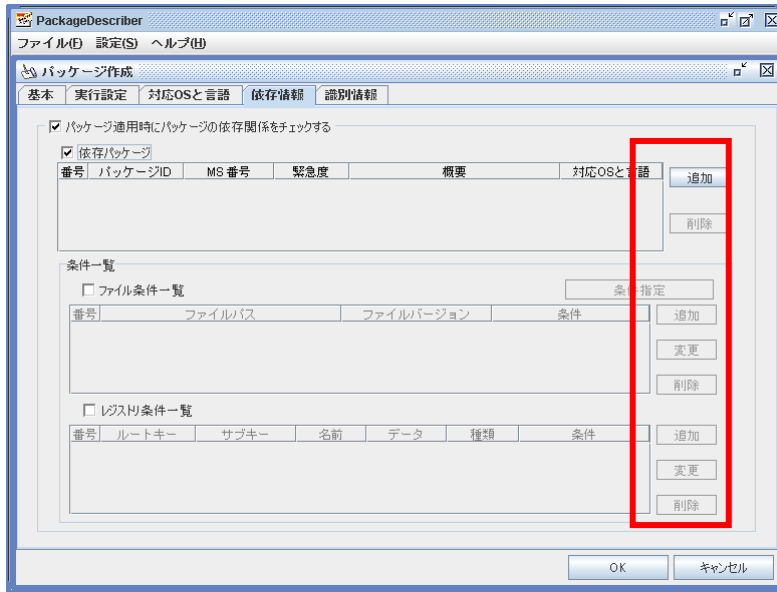
	追加情報	各適用条件	複合適用条件
A	1	1、2、3のすべてが適用されている	Aを満たし、かつ BとCに対し設定した条件を 全て満たす
	2		
	3		
B	1	and/orを任意に設定可能	
	2		
C	1		
	2		

### 注意

- パッケージがサービスパックに依存する場合、「対応OSと言語」タブで「ベースとなるサービスパック」を選択してください。
- 依存レジストリ情報に「>」を使用すると正しく適用できない場合があります。

■ 依存情報の入力方法を説明します。

- (1) 「パッケージ情報ファイル作成」画面の「依存情報」タブをクリックし、「パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする」にチェックを入れ、設定する各項目を入力します。

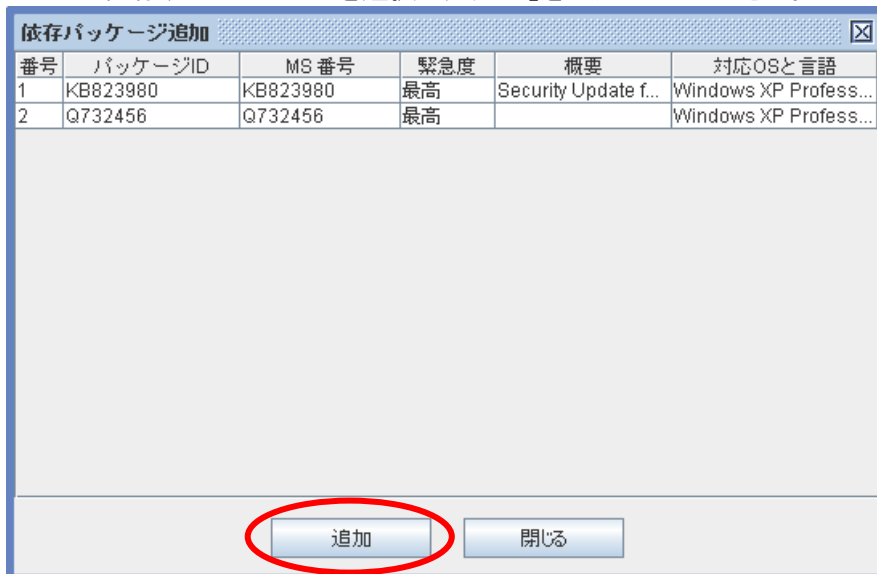


● 依存パッケージ

➢ 追加

「依存パッケージ」項目の「追加」をクリックすると以下の画面が表示されます。

画面に表示されているパッケージは、現在パッケージ Web サーバに登録されているパッケージです。リストから依存するパッケージを選択し、「追加」をクリックしてください。



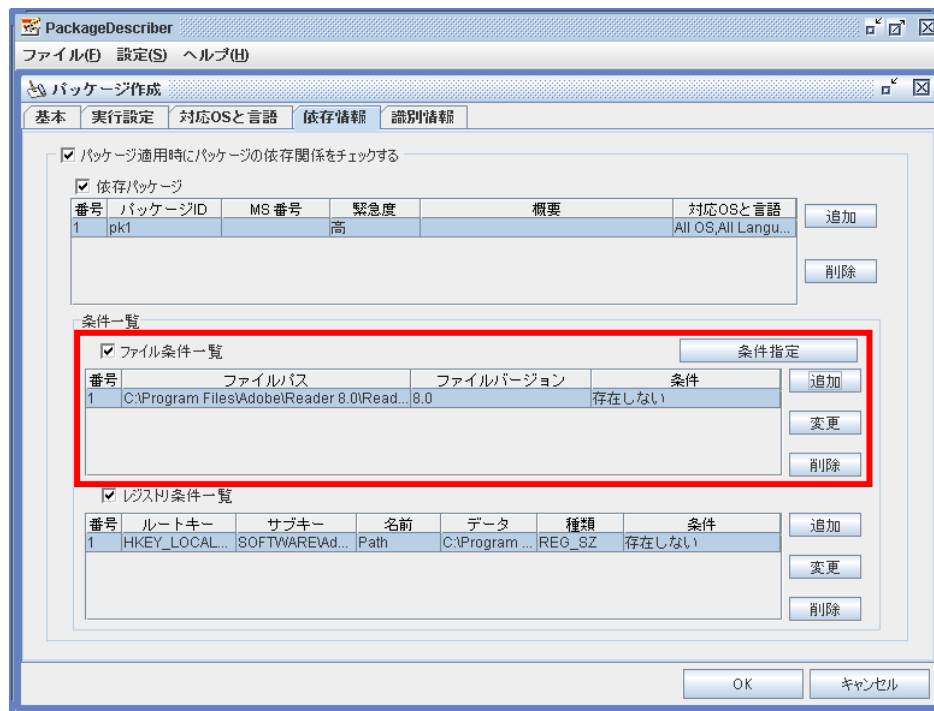
➢ 削除

依存パッケージからパッケージを選択し「削除」ボタンをクリックすると、依存パッケージが削除されます。

## ■ 条件一覧

### ・ファイル条件一覧

パッケージを適用する条件にファイルを指定する場合、「ファイル条件一覧」にチェックを入れてください。

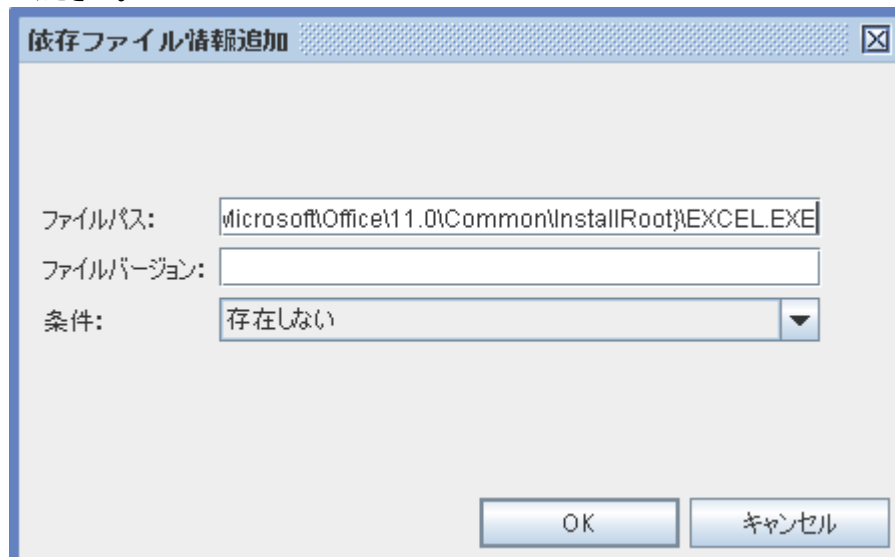


### 注意

依存条件は、「条件指定」をしてはじめて判定されます。「ファイル条件一覧」、及び「レジストリ条件一覧」に追加しただけでは判定されません。

### ➤ 追加

「追加」ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。各項目を入力し「OK」ボタンをクリックしてください。



### ・ファイルパス

依存するファイルパスとファイル名を 259 バイト以内で入力してください。

・ファイルバージョン  
 ファイルのバージョンを「x.x.x.x」の形式で入力してください。半角数字と「.」、半角ピリオドのみ、31  
 バイト以内で入力可能です。

・条件  
 パッケージの適用条件を選択します。

**注意**

「ファイルバージョン」を入力し、条件に「存在しない」を指定した場合は、入力したバージョンが  
 存在しない場合に一致します。

例)ファイルバージョンに「4.0.0.0」を入力し条件に「存在しない」を指定した場合、「3.0.0.0」や  
 「5.0.0.0」のファイルが存在した場合でも一致します。「4.0.0.0」のファイルが存在する場合  
 に一致しません。

**ヒント**

- ファイルバージョンを入力しない場合は、ファイルの有無が依存条件となります。
- ファイルバージョンは、ファイルのプロパティの「バージョン情報」タブから確認できます。
- ファイルのプロパティに「バージョン情報」タブが存在しない、または「バージョン情報」タブの  
 「ファイル バージョン」の項目が空の場合、何も記入する必要はありません。
- DPM Ver5.0 以前で作成したパッケージを本バージョンで読み込んだ場合、「条件」が以下の  
 ように変換されます。

DPM Ver5.0 以前	本バージョン
存在しない	存在しない
存在する (ファイルバージョンが入力されている)	存在する(バージョンと等しい)
存在する (ファイルバージョンが入力されていない)	存在する(バージョンチェックなし)

- 「ファイルパス」には、レジストリに記載されたパスを指定できます。  
 フルパスのレジストリ名を半角中括弧(「{」、「}」)で囲んで指定してください。  
 例) C:¥Program Files¥Microsoft Office¥Office 配下の EXCEL.EXE を指定する場合  
 HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office¥9.0¥Excel¥InstallRoot¥Path  
 の値が「C:¥Program Files¥Microsoft Office¥Office¥」と設定されていると仮定します。  
 この場合、ファイルパスに  
 {HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office¥9.0¥Excel¥InstallRoot¥Path}  
 EXCEL.EXE を指定してください。

それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

設定した値		管理対象コンピュータの状態				
ファイルバージョン	条件	ファイルが存在する(バージョンは下記)				ファイルが存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	なし	
指定なし	存在しない	×	×	×	×	○
	存在する (バージョンチェックなし)	○	○	○	○	×
2.0.0.0	存在しない	○	×	○	○	○
	存在する (バージョンと等しい)	×	○	×	×	×
	存在する (バージョンより小さい)	○	×	×	×	×
	存在する(バージョン以下)	○	○	×	×	×
	存在する (バージョンより大きい)	×	×	○	×	×
	存在する(バージョン以上)	×	○	○	×	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

➤ 変更

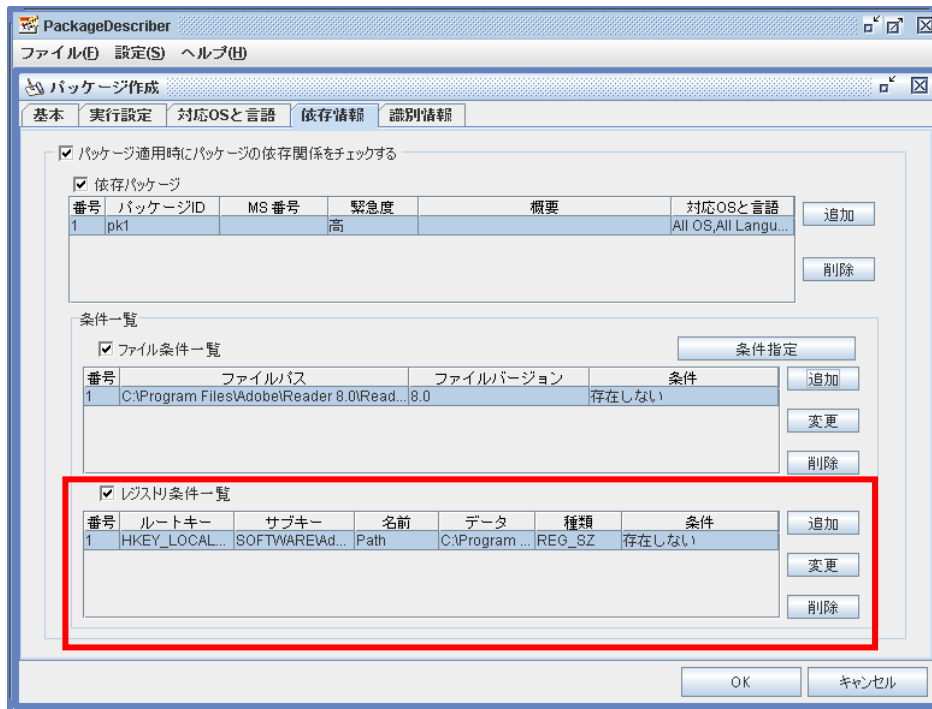
ファイルを選択し「変更」ボタンをクリックすると「依存ファイル情報変更」画面が表示されます。

➤ 削除

ファイルを選択し「削除」ボタンをクリックすると「依存ファイル」が削除されます。

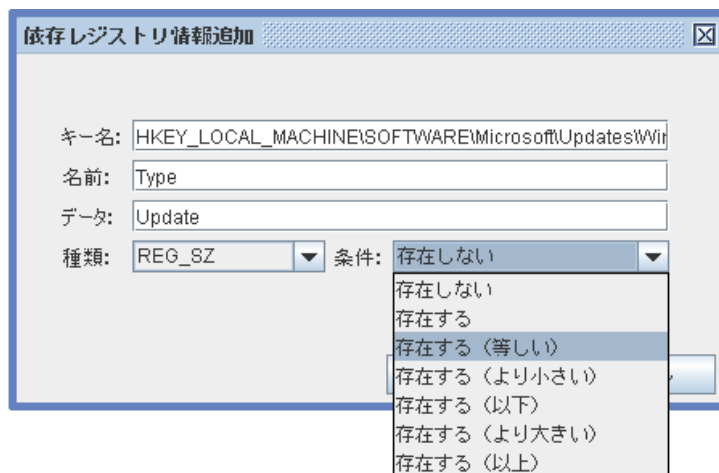
- レジストリ条件一覧

依存情報の条件にレジストリを指定する場合、「レジストリ条件一覧」にチェックを入れてください。



- 追加

「追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。各項目を入力し「OK」をクリックしてください。



- キー名

レジストリキー名をルートキーも含め 255 バイト以内で入力します。

- 名前

キー名に所属する値(ValueName)を 255 バイト以内で入力します。

- 種類

値のタイプ(ValueType)を選択します。

・データ

値のデータ(ValueData)を入力します。

-「REG\_SZ」・・・ 1024 バイト以内

-「REG\_BINARY」・・・ 1024 バイト以内

-「REG\_DWORD」・・・ 0 から 4294967295 までの数字

-「REG\_QWORD」・・・ 0 から 18446744073709551615 までの数字

・条件

パッケージの適用条件を選択します。

ヒント

- 条件で「存在する」を指定した場合は、キー名と名前のみが比較されます。
- REG\_SZ に対するデータの比較は、単純な文字列としての大小比較となります。「9.0.0.0」と「10.0.0.0」では、「9.0.0.0」が大きいと判断されます。
- キー名、名前、データは、大文字小文字は区別しません。
- REG\_BINARY は「存在する」「存在する(等しい)」「存在しない」のみ選択できます。
- DPM Ver5.0 以前で作成したパッケージを本バージョンで読み込んだ場合、「条件」が以下のように表示されます。

DPM Ver5.0 以前	本バージョン
存在しない	存在しない
存在する (データが入力されている)	存在する(等しい)
存在する (データが入力されていない)	存在する

それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

(1)キー名のみ指定の場合

設定した値	管理対象コンピュータの状態	
	存在する	存在しない
条件		
存在しない	×	○
存在する	○	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)



## (2)名前を指定した場合

## ・REG\_SZ

設定した値		管理対象コンピュータの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	空	
空	存在しない	×	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	○	×
2.0.0.0	存在しない	○	×	○	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×	×
	存在する(より小さい)	○	×	×	○	×
	存在する(以下)	○	○	×	○	×
	存在する(より大きい)	×	×	○	×	×
	存在する(以上)	×	○	○	×	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

## ・REG\_BINARY

設定した値		管理対象コンピュータの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		AA	BB	CC	なし	
空	存在しない	×	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	○	×
BB	存在しない	○	×	○	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

・REG\_DWORD

設定した値		管理対象コンピュータの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	存在しない	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	×
2	存在しない	○	×	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×
	存在する(より小さい)	○	×	×	×
	存在する(以下)	○	○	×	×
	存在する(より大きい)	×	×	○	×
	存在する(以上)	×	○	○	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

・REG\_QWORD

設定した値		管理対象コンピュータの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	存在しない	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	×
2	存在しない	○	×	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×
	存在する(より小さい)	○	×	×	×
	存在する(以下)	○	○	×	×
	存在する(より大きい)	×	×	○	×
	存在する(以上)	×	○	○	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

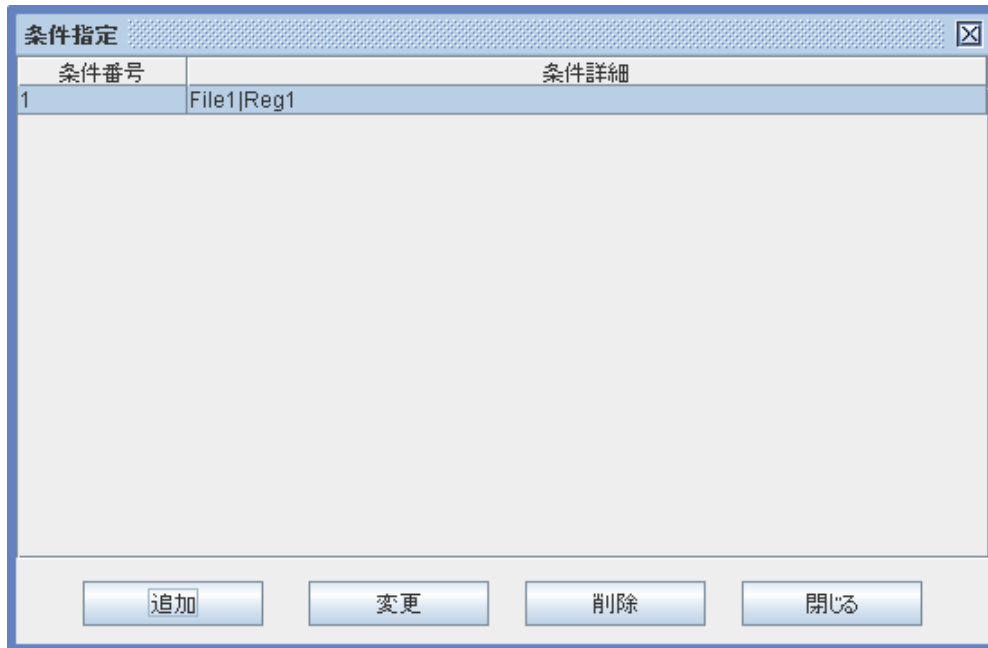
- 変更  
レジストリを選択し「変更」ボタンをクリックすると、「依存レジストリ情報変更」画面が表示されます。
- 削除  
レジストリを選択し「削除」ボタンをクリックすると、依存レジストリが削除されます。

- ・ 条件の「and」「or」指定

**注意**

- 「and」「or」条件に使用されている条件は削除できません。
- 削除する条件より下のファイル条件、レジストリ条件が「and」「or」条件で指定されている場合は、この条件は削除できません。  
例)3番目のファイル条件が「and」「or」条件に使用されている場合、1番目と2番目のファイル条件は削除できません。

- (1) 依存情報タブで「条件指定」を選択して、「条件指定」画面を表示します。

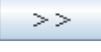
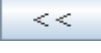


**ヒント**

各条件番号は and 条件として扱われ、条件詳細の「|」で区切られた各条件は or 条件として扱われます。

- (2) 「追加」ボタンをクリックすると、「OR 条件指定」画面を表示します。



- (3) OR 条件を指定するファイル条件またはレジストリ条件を  ボタンで追加します。  
削除したい場合は  ボタンをクリックします。

## 5.5 識別情報

- 識別情報を利用して、コンピュータにパッケージが適用されたかを判断します。

### <識別情報>

パッケージをインストールしたことにより起こるファイルとレジストリの変化を「識別情報」として入力します。

例) パッケージ A を登録し、コンピュータに配信します。

- 1) 配信前 → 現在どのパッチがインストールされているか  
ファイル情報やレジストリはどうなっているか
- 2) 配信後 → パッケージ A が配信されると、ファイルやレジストリにどのような変化があるか

上記 1)2)を比較して得られる差分情報を「識別情報」として登録します。

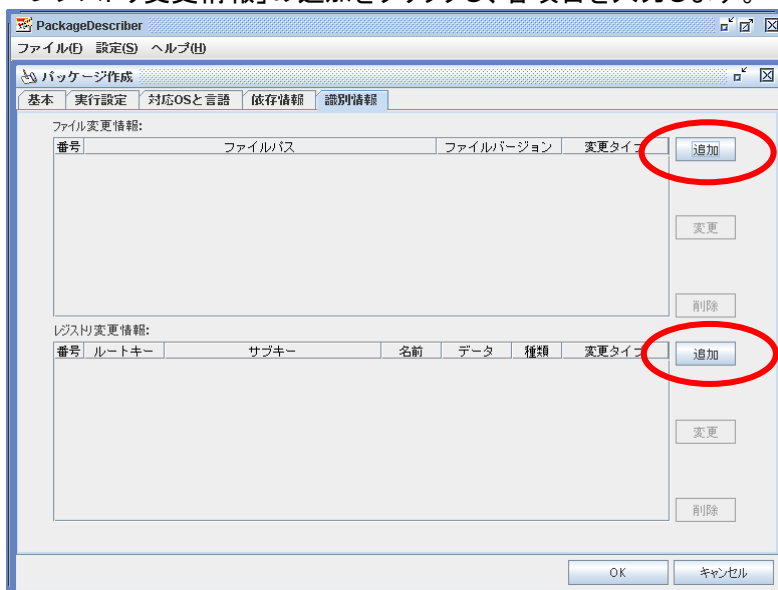
DPM では、ここで指定した識別情報を元にパッケージの適用状況を判断します。入力したファイル変更情報とレジストリ変更情報を全て満たした場合、適用済みと判断します。

### ヒント

- 作成するパッケージファイルが Microsoft 社の発行したサービスパック/HotFix である場合、識別情報を入力しなくてもレジストリに書き込まれた MS 番号 (KBXXXXXX や QXXXXXX) と「基本」タブで入力した「MS 番号」を比較し、一致していれば適用済みと判断することができます。
- 作成するパッケージが Microsoft 社の発行したサービスパックの場合、識別情報を入力しなくても「基本」タブで入力した「メジャーバージョン」と「マイナーバージョン」と、現在の OS にインストールされているサービスパックのバージョンを比較し、適用されているかどうかを判断します。
- MS 番号を持っていない、或いは MS 番号で識別できないパッケージの場合や、レジストリ等にしか情報が残らないパッケージを適用する場合に識別情報の入力が必要になります。

- パッケージの識別情報の入力方法を説明します。

- (1) 「パッケージ情報ファイル作成」画面の「識別情報」タブをクリックし、「ファイル変更情報」の「追加」、もしくは「レジストリ変更情報」の追加をクリックし、各項目を入力します。



- **ファイル変更情報**  
パッケージを適用したことにより、ファイルシステムに起こる変更情報を元に適用状態の判断を行う場合に使用します。

➤ **追加**

「ファイル情報追加」画面が表示されます。パッケージのファイル識別情報を追加します。

The screenshot shows a dialog box titled 'ファイル情報追加' (File Information Addition). It has three input fields: 'ファイルパス:' (File Path), 'ファイルバージョン:' (File Version), and '変更タイプ:' (Change Type). The '変更タイプ:' dropdown menu is currently set to '新規作成' (New Creation). At the bottom of the dialog, there are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

- ・**ファイルパス**  
変化があったファイルパスとファイル名を入力します。259 バイト以内で入力します。
- ・**ファイルバージョン**  
ファイルのバージョンを入力します。半角数字と「.」のみ、31 バイト以内で入力します。
- ・**変更タイプ**  
以下の選択肢から選択します。

変更タイプ	説明
新規作成	パッケージの適用で新規生成される場合に選択します。
書き換え	パッケージの適用で書き換えられる場合に選択します。
バージョンアップ	以下に該当するファイルの場合に選択します。 ・既存ファイルより新しいファイルの場合 ⇒書き換えを行う仕様のパッチである。 ・既存ファイルより古いファイルの場合 ⇒書き換えを行わない仕様のパッチである。
削除	パッケージの適用で削除される場合に選択します。

**重要**

ファイルパスは利用環境によって異なる場合がありますので、システム環境変数を入力してください。

例) C:¥WINNT¥system32 配下の winsock.dll に変化がある場合  
%WinDir%¥system32¥winsock.dll

ヒント

- ファイルバージョンを入力しない場合は、ファイルの有無が識別条件となります。
- ファイルバージョンはファイルのプロパティの「バージョン情報」タブから確認できます。
- ファイルのプロパティに「バージョン情報」タブが存在しない、または「バージョン情報」タブの「ファイル バージョン」の項目が空の場合、何も記入する必要はありません。
- 「ファイルパス」には、レジストリに記載されたパスを指定できます。  
フルパスのレジストリ名を半角中括弧（「{」、「}」）で囲んで指定してください。  
例) C:\Program Files\Microsoft Office\Office 配下の EXCEL.EXE を指定する場合  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\9.0\Excel\InstallRoot\Path  
の値が「C:\Program Files\Microsoft Office\Office\」と設定されていると仮定します。  
この場合、ファイルパスに  
{HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Office\9.0\Excel\InstallRoot\Path}  
EXCEL.EXE を指定します。

それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

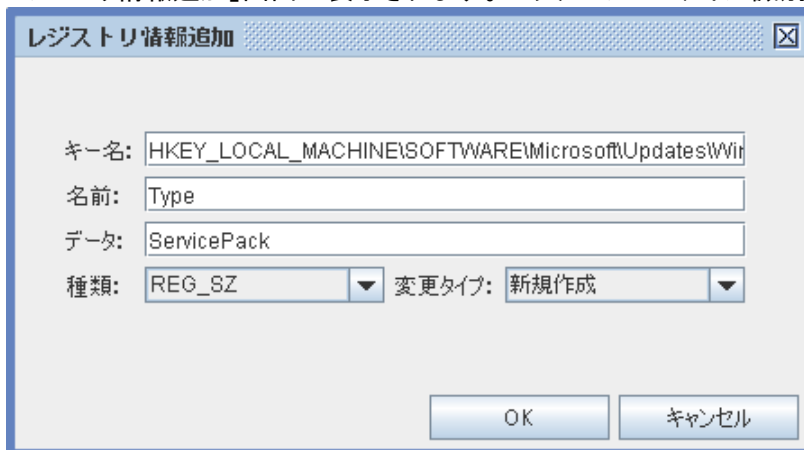
設定した値		管理対象コンピュータの状態				
ファイルバージョン	条件	ファイルが存在する(バージョンは下記)				ファイルが存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	なし	
指定なし	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	○	×
	バージョンアップ	×	×	×	○	×
	削除	×	×	×	×	○
2.0.0.0	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×	×
	バージョンアップ	×	○	○	×	×
	削除	×	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

- 変更  
追加したパッケージのファイル識別情報を修正します。
- 削除  
追加したパッケージのファイル識別情報を削除します。
- レジストリ変更情報  
パッケージを適用したことにより、変更のあったレジストリ情報を元にパッケージの適用の判断を行う場合に使用します。

➤ 追加

「レジストリ情報追加」画面が表示されます。パッケージのファイル識別情報を追加します。



・キー名

ルートキーも含め、レジストリキー名を入力します。

・名前

キー名に所属する値 (ValueName)

・種類

値のタイプ (ValueType)

・データ

値のデータ (ValueData)

・変更タイプ

以下の選択肢から選択します。

新規作成 : パッケージの適用で新規生成される場合。

書き換え : パッケージの適用で書き換えられる場合。

削除 : パッケージの適用で削除される場合。

それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

(1) キー名のみ指定の場合

設定した値 条件	管理対象コンピュータの状態	
	存在する	存在しない
新規作成	○	×
削除	×	○

(○: 識別条件を満たす ×: 識別条件を満たさない)

## (2)名前を指定した場合

## ・REG\_SZ

設定した値		管理対象コンピュータの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	空	
空	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	○	×
	削除	×	×	×	×	○
2.0.0.0	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×	×
	削除	×	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

## ・REG\_BINARY

設定した値		管理対象コンピュータの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		AA	BB	CC	なし	
空	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	○	×
	削除	×	×	×	×	○
BB	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×	×
	削除	×	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

## ・REG\_DWORD

設定した値		管理対象コンピュータの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	×
	削除	×	×	×	○
2	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×
	削除	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)



・REG\_QWORD

設定した値		管理対象コンピュータの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	×
	削除	×	×	×	○
2	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×
	削除	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

- 変更  
追加したパッケージのレジストリ識別情報を修正します。
- 削除  
追加したパッケージのレジストリ識別情報を削除します。

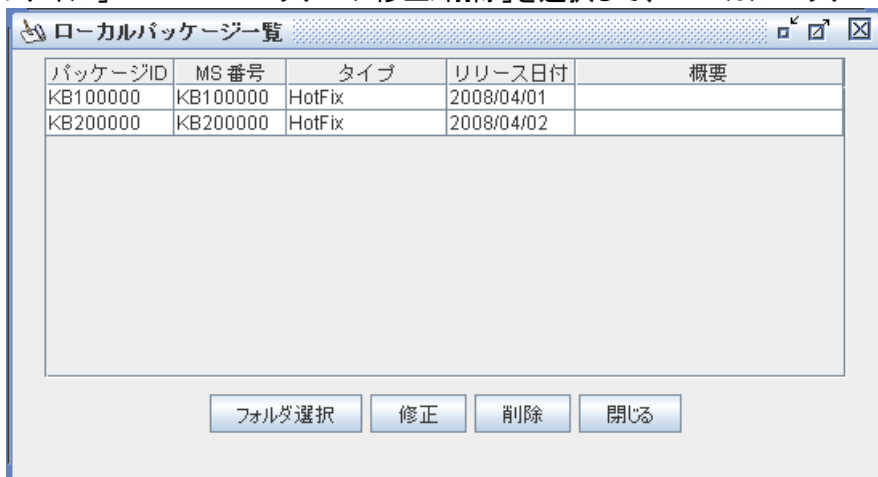
- (2) 必要な情報を入力後「OK」ボタンをクリックすると「パッケージ情報ファイル」が作成されます。  
「キャンセル」ボタンをクリックすると、入力情報はすべて破棄され「パッケージ情報ファイル作成」画面を閉じます。

以上でパッケージ作成に必要な情報の入力完了です。  
「パッケージ作成」画面の「OK」ボタンをクリックして、パッケージを作成してください。

## 6 パッケージ修正/削除

■ 作成したパッケージの修正/削除方法について説明します。

(1) 「ファイル」メニュー→「パッケージ修正/削除」を選択して、「ローカルパッケージ一覧」画面を起動します。

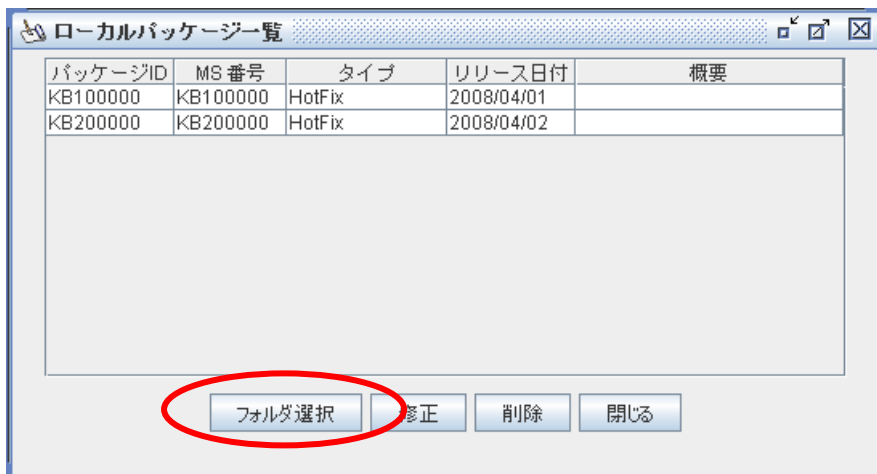


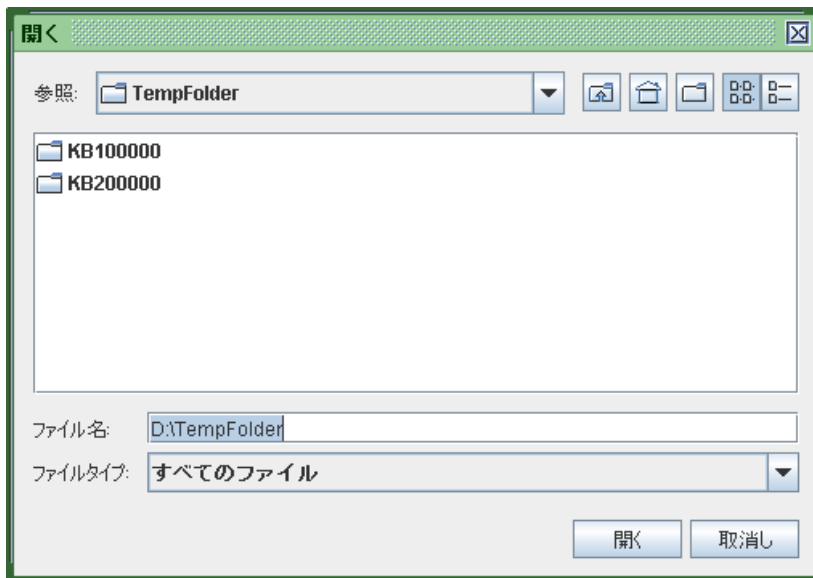
ヒント

「ローカルパッケージ一覧」画面の各項目名をクリックすることで、パッケージのソート順を変更することが出来ます。

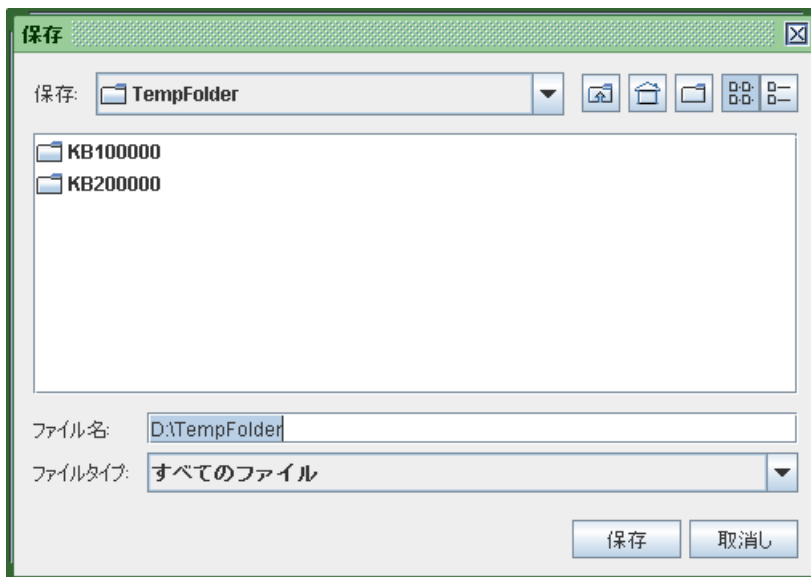
■ 「ローカルパッケージ一覧」画面で修正/削除したいパッケージのフォルダを選択することができます。

(1) 「フォルダ選択」ボタンをクリックすると「開く」画面が開きますので修正/削除したいパッケージのフォルダを選択し、「開く」ボタンをクリックします。





- (2) 「ローカルパッケージ一覧」画面に指定したフォルダのパッケージが表示されますのでパッケージを選択し、修正/削除します。
- (3) 修正の場合は、修正後に「保存」画面が開きますので、保存するフォルダを選択して「保存」ボタンをクリックします。



**注意**

- 最初に「ローカルパッケージ一覧」画面に表示されるパッケージ一覧は、「一時保存フォルダ」で指定したフォルダのパッケージ一覧です。
- 「ファイル名」、「ファイルタイプ:すべてのファイル」が画面に表示されますが、フォルダを選択してください。
- フォルダを「一時保存フォルダ」以外のフォルダに保存する場合は、誤ってバックアップのパッケージを上書きしないために、そのフォルダに同一パッケージIDのパッケージが存在しないことを確認してください。

(2) 「ローカルパッケージ一覧」画面からパッケージを選択し、修正/削除を行います。

- 「修正」ボタン  
「修正」ボタンをクリックすると、「パッケージ修正」画面を起動します。
- 「削除」ボタン  
「削除」ボタンをクリックすると、選択したパッケージを削除します。
- 「閉じる」ボタン  
「閉じる」ボタンをクリックすると、画面を閉じます。

(3) 「ローカルパッケージ一覧」画面の「修正」ボタンをクリックして、「パッケージ修正」画面を表示します。

The screenshot shows a window titled 'PackageDescriptor' with a menu bar containing 'ファイル(F)', '設定(S)', and 'ヘルプ(H)'. The main window has a title bar 'パッケージ修正: KB200000' and a tabbed interface with '基本', '実行設定', '対応OSと言語', '依存情報', and '識別情報' tabs. The '基本' tab is active and contains the following fields:

- \* パッケージID:
- 会社名:
- リリース日付(YYYY/MM/DD):
- パッケージ概要:
- タイプ:
- 緊急度:
- MS 番号:
- 説明: MS Q 番号もしくはKB番号を入力してください。  
例: "Q327269" "KB823980"

At the bottom right, there are 'OK' and 'キャンセル' buttons.

「パッケージ ID」と「タイプ」は修正できません。

その他の項目は、本編「5. パッケージ作成」を参照して修正を行ってください。

**重要**

すでにパッケージ Web サーバに追加されたパッケージを修正した場合は、「ファイル」メニュー→「パッケージ Web サーバへの登録/削除」から「登録/再登録」ボタンをクリックして、再登録を行ってください。

詳細は、本編「7. パッケージ Web サーバへの登録/削除」を参照してください。

## 7 パッケージWebサーバへの登録/削除

- 作成したパッケージはパッケージ Web サーバに登録することで、管理サーバから自動ダウンロードできるようになります。

**ヒント**

パッケージ Web サーバへ登録していないパッケージは、管理サーバから自動ダウンロードできません。

- 「パッケージ Web サーバへの登録/削除」画面で、パッケージ Web サーバに登録したパッケージ一覧を確認することができます。
- パッケージ Web サーバへの登録、削除方法を説明します。

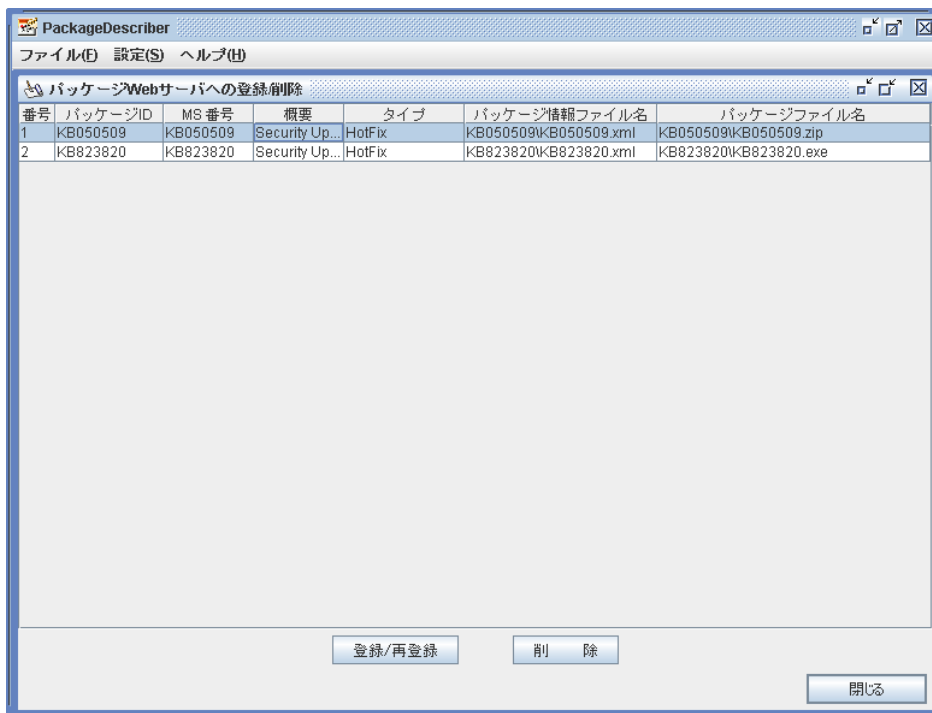
(1) 「ファイル」メニュー→「パッケージ Web サーバへの登録/削除」を選択し、「パッケージ Web サーバへの登録/削除」画面を起動します。

**重要**

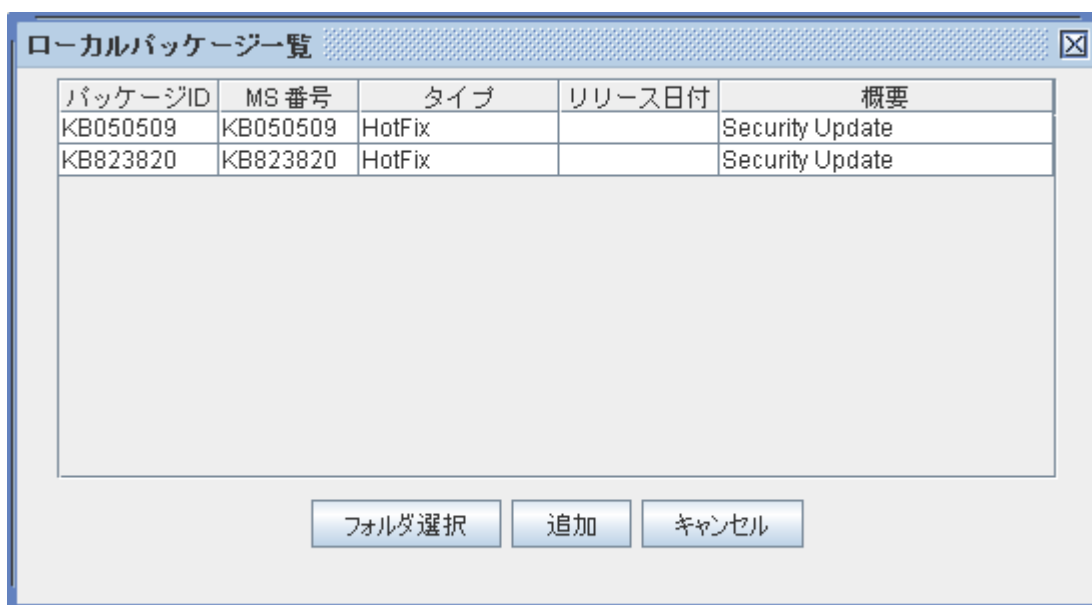
パッケージ Web サーバへ登録する際は、HTTP サービスを停止してから作業を行ってください。

例) ・World Wide Web Publishing Service (IIS)

・Apache Tomcat



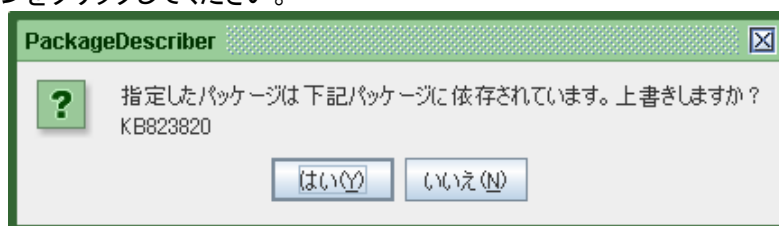
- 登録/再登録  
「登録/再登録」ボタンをクリックした場合、「ローカルパッケージ一覧」画面が表示されます。



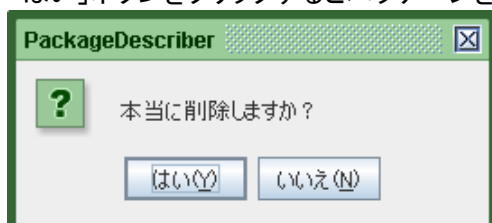
- フォルダ選択  
「ローカルパッケージ一覧」で登録/再登録したいパッケージのフォルダを選択/変更することができます。詳細は、本編「6. パッケージ修正/削除」を参照ください。
- 追加  
登録したいパッケージを選択し、「追加」ボタンをクリックするとパッケージを Web 共有フォルダにコピーしパッケージ Web サーバに登録します。

#### ヒント

パッケージを再登録する場合、当該パッケージが他のパッケージから依存されている場合、以下の確認画面が表示されます。再登録する場合は「はい」ボタンを、登録しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。

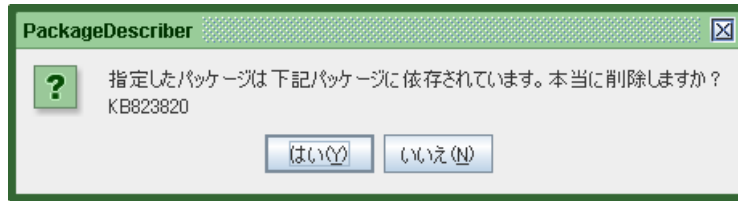


- 削除  
削除したいパッケージを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。確認画面で「はい」ボタンをクリックするとパッケージをパッケージ Web サーバから削除します。



## ヒント

削除を選択したパッケージが他のパッケージから依存されている場合、以下の確認画面が表示されます。削除する場合は「はい」ボタンを、削除しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。



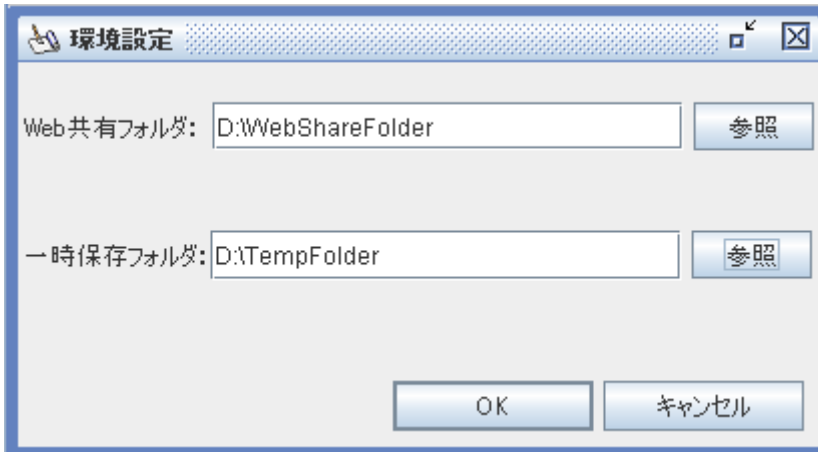
パッケージを登録/再登録する際、選択したパッケージのパッケージ情報ファイルまたはパッケージファイルが存在しない場合、「追加」ボタンをクリックすると、「パッケージ情報ファイルが見つかりません」もしくは「パッケージファイルが見つかりません」というエラーメッセージを表示します。



## 8 環境設定

■ パッケージ Web サーバの設定方法を説明します。

- (1) 「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「PackageDescriber for DPM」を選択し、PackageDescriber を起動します。
- (2) 「設定」メニュー→「環境設定」を選択します。



### 注意

「パッケージWebサーバへの登録/削除」画面、または「オンライン更新」画面を開いている場合、パッケージWebサーバの共有フォルダは設定できません。

- 「Web 共有フォルダ」  
省略不可です。初期設定時に指定したフォルダが表示されます。259 バイト以内で入力します。
- 「一時保存フォルダ」  
初期設定時に指定したフォルダが表示されます。245 バイト以内で入力します。
- 「参照」ボタン  
フォルダ選択ダイアログを開きます。

### ヒント

パッケージ Web サーバへ登録していないパッケージは、管理サーバから自動ダウンロードできません。

- 「OK」ボタン  
Web 共有フォルダを変更した後、「OK」ボタンをクリックすると Web 共有フォルダの変更を行います。設定に失敗した場合や Web 共有フォルダを未指定の場合はエラーメッセージが表示されます。
- 「キャンセル」ボタン  
操作をキャンセルし画面を閉じます。



**注意**

- 「Web共有フォルダ」と「一時保存フォルダ」は、「読み取り」と「書き込み」属性があることを確認してください。
- 「Web共有フォルダ」と「一時保存フォルダ」には登録したパッケージが格納されるので、十分な空き容量を確保してください。
- ネットワークコンピュータの共有フォルダを「Web共有フォルダ」または、「一時保存フォルダ」に指定する場合、事前にネットワークドライブの割り当てを行うことを推奨します。ドライブの割り当てが行われていない場合、ネットワークコンピュータの共有フォルダにアクセスできない場合があります。
- Web共有フォルダを変更すると、以前に登録したパッケージは再登録する必要があります。

以上で環境設定は、完了です。「パッケージの登録/再登録」で登録したパッケージはすべて「Web共有フォルダ」配下に保存されます。

## 9 オンライン更新

- サポートしている OS 情報に新しいサービスパックがリリースされた場合 (Windows Server 2003 に SP3 がリリースされた場合など)、OS 定義ファイルと言語定義ファイルをアップデートし、新しいサービスパックの情報を追加する必要があります。


PackageDescriber は「オンライン更新」機能を利用して、DPM の公式 Web サイトから最新の定義ファイルをダウンロードし、更新する機能を提供しています。

この機能を利用することにより、将来リリースされるパッチ、アプリケーションでも正しく情報ファイルを作成することができます。

現在、本機能を使用するための情報 (「OS 情報 URL」欄と「言語情報 URL」欄) は空になっています。本機能をご利用頂く状況になった場合は、DPM 製品ホームページなどでご案内します。

- オンライン更新の方法について説明します。

- (1) 「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「PackageDescriber for DPM」を選択して、PackageDescriber を起動します。
- (2) 「ヘルプ」メニュー→「オンライン更新」を選択します。「オンライン更新」画面が起動しますので、各項目を確認し「更新」をクリックしてください。「オンライン更新」が開始されます。



オンライン更新画面の各項目について説明します。

- OS 情報 URL  
OS 定義ファイルの公式 URL を入力します。デフォルトの設定から変更する必要はありません。
- 言語情報 URL  
言語定義ファイルの公式 URL を入力します。デフォルトの設定から変更する必要はありません。
- プロキシチェックボックス  
DPM の公式 Web サイトにアクセスする際に、プロキシサーバを経由する場合にチェックします。直接インターネットと接続する場合は、プロキシをチェックする必要はありません。

- プロキシ  
プロキシサーバのアドレスを入力します。259 バイト以内で入力します。  
プロキシチェックボックスがチェックされた場合、必ずドメイン名または IP アドレスを入力してください。
- ポート  
プロキシサーバのポート番号を指定してください。0～65535 の数字で入力します。
- 「更新」ボタン  
入力した OS 情報 URL と言語情報 URL からファイルをダウンロードして保存します。
- 「保存 & 閉じる」  
OS 情報 URL と言語情報 URL をファイルに保存して画面を閉じます。
- ステータス  
「更新」ボタンを押すと、画面中「説明」のエリアは「ステータス」に変わり、オンライン更新の状況と結果を表示します。

**ヒント**

プロキシサーバ及びポート番号がわからない場合、ネットワーク管理者に確認してください。